もっと知りたいパソコン

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！

機能や設定など、もっと知りたいあなたに！

パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

マニュアルを活用しよう

このパソコンには次のマニュアルや練習ソフトが用意されています。
『はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルや練習ソフトを活用してください。

『はじめにお読みください』

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい!

『もっと知りたいパソコン』

- パソコンの機能を詳しく知る
- 周辺機器を接続する
- BIOSの設定を変更する

パソコン初心者なので、基本的なことから覚えたい!

『パソコンのいろは』

- NXパッドの使いかた
- 文字の入力のしかた
- Windowsの基本操作を覚える
- インターネットの練習

困ったなぁ、どうしたらいいのかな?

『困ったときのQ&A』

- トラブルを解決する
- パソコンを再セットアップする

知りたいことを画面上で調べてみよう

『ぱそガイド』(電子マニュアル)

- インターネットやメールをする
- 文字の入力のしかた
- Windowsの基本操作
- 添付のアプリケーションを使う
- トラブルを解決する
- アプリケーションを追加/削除する
- サービス&サポート窓口紹介
- BIGLOBEに入会する

※巻末に簡単な操作方法が載っています。

はじめに

　このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

2002年５月　初版

853-810028-372-A

表記について

記号

チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

◆モデルの呼びかた

LaVie C	LC950、LC900、LC700、LH700、LC550、LC500、LG18SS※、LG16SS※、LG14SS※を指します。
LaVie L	LL750、LL700、LL550、LL500、LH300、LG10JL※、LG11NR※、LG10RR※を指します。
LaVie L(15型モデル)	LL750、LL700、LG10JL※を指します。
LaVie L(14型モデル)	LL550、LL500、LH300、LG11NR※、LG10RR※を指します。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブが搭載されているモデルです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブが搭載されているモデルです。
2.4GHzワイヤレスLANモデル	2.4GHzワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルです。

※:LaVie Gシリーズの製品です。本文中の記載は、上記のモデル名で説明しています。

◆LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

記載内容

- このパソコンでは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」からの参照先は、すべて「50音別目次」からの参照先を記載しています。
- 本文中に記載されているCD/DVDドライブは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを指します。
- 本文中に記載されているCD/DVDプレーヤボタンは、CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンを指します。
- 本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。
- イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- 本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアなどの正式名称

Windows、 Windows XP	次のいずれかを指します。 •Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 •Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
インターネットエクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
RecordNow DX	VERITAS RecordNow DX
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 5 SE Basic
iモード	i-mode、アイモード
アイモーニング	生活情報ポータル アイモーニング for Windows V03L01

このマニュアルに出てくる基本的な操作

キーボードでの操作

キーボードでの操作は、【　】で囲んで記載しています。

記載例	意味
【F2】を押す	キーボードのF2を押すことを表しています。
【Ctrl】＋【Alt】＋【Del】	CtrlとAltを押しながら同時にDel SysRqを押すことを表しています。

「スタート」ボタンからの操作

Windowsの「スタート」ボタンから行う操作は、「　」で囲んで記載しています。

記載例	意味
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「システムの復元」をクリックする	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを表しています。

「デバイス マネージャ」の開きかた

次のようにするとデバイス マネージャを開くことができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリックする
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックする
「パフォーマンスとメンテナンス」ウィンドウが表示されます。

3 「システム」をクリックする
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「ハードウェア」タブをクリックする

5 「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする
「デバイス マネージャ」ウィンドウが表示されます。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コ ンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第 72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	認証番号
LaVie C	A02-0317JP
LaVie L（15型モデル）	A01-0872JP
LaVie L（14型モデル）	A01-0285JP

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

■瞬時電圧低下について

［バッテリパックを取り付けていない場合］

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

［バッテリパックを取り付けている場合］

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■レーザ安全基準について

このパソコンには、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD/DVDドライブが内蔵されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROMは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

■輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1:NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd.

目 次

PART 1

PART 3

PART

1

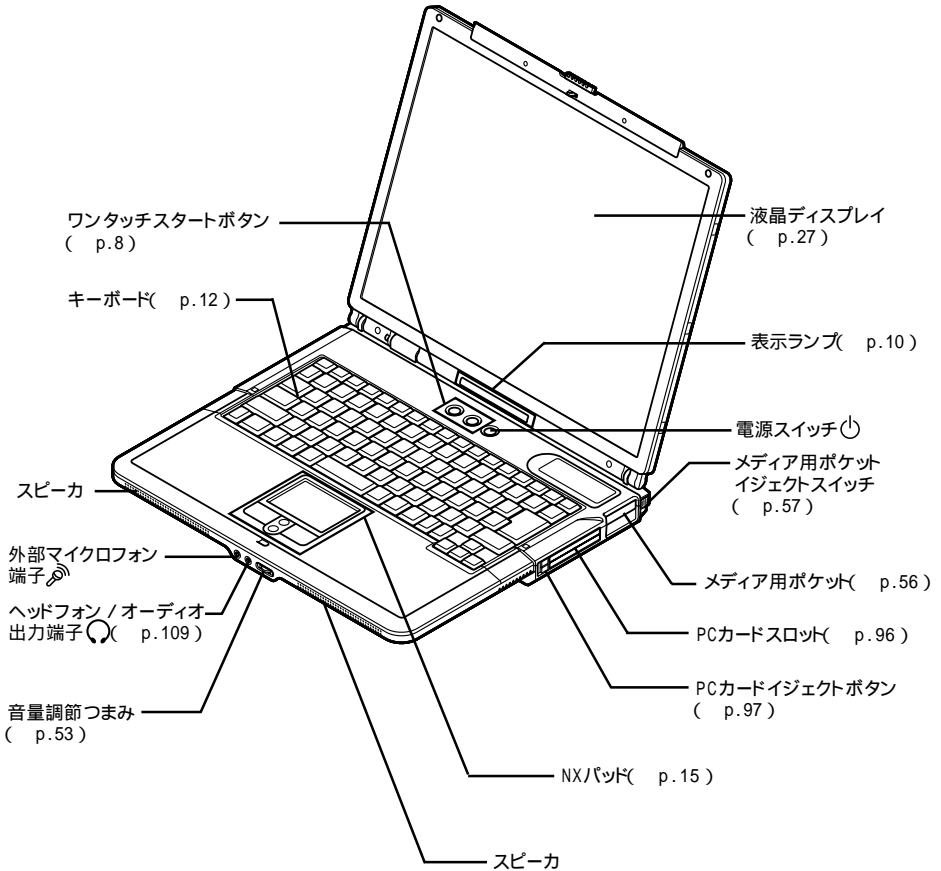
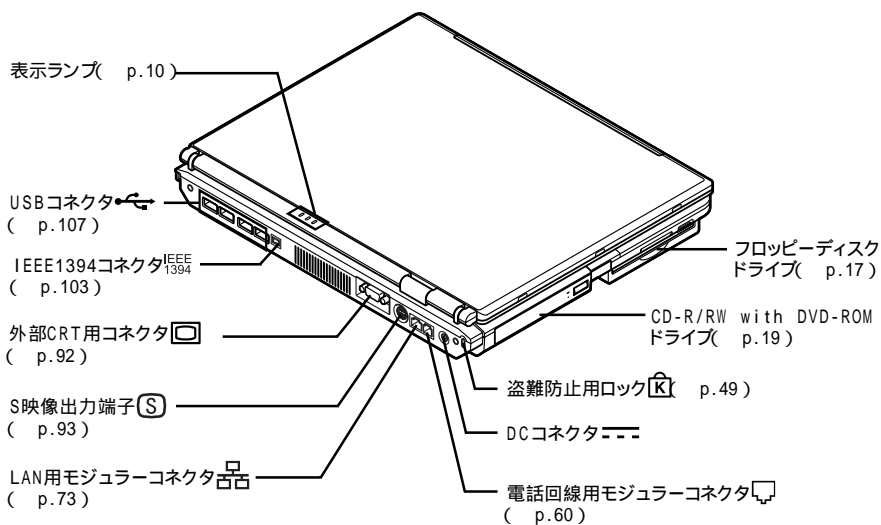
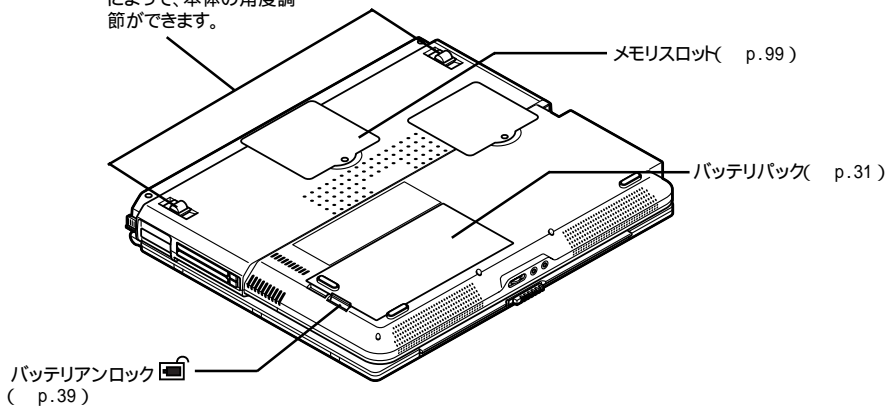
このパソコンの基本機能

このパソコンの各部の名称とおもな機能について
説明しています。

本体の各部の名称

お使いのモデルによって、各部の位置や形状が多少異なる場合があります。

LaVie C

■ 本体前面／右側面

■本体背面／左側面

■本体底面

LaVie L(15型モデル)

■ 本体前面／右側面

■ 本体背面／左側面

電話回線用モジュラーコネクタ(→p.60)

LAN用モジュラーコネクタ(LAN内蔵モデル)(→p.73)

マウス／テンキーボード用コネクタ/(→p.110)

USBコネクタ(右から順にポート1、ポート2)(→p.107)

IEEE1394コネクタ(右から順にポート1、ポート2)(→p.103)

S映像出力端子Ⓢ(→p.93)

外部CRT用コネクタ(→p.92)

シリアルコネクタIOIOI(→p.110)

表示ランプ(→p.10)

PCカードイジェクトボタン(→p.97)

PCカードスロット(上から順にスロット0、スロット1)(→p.96)

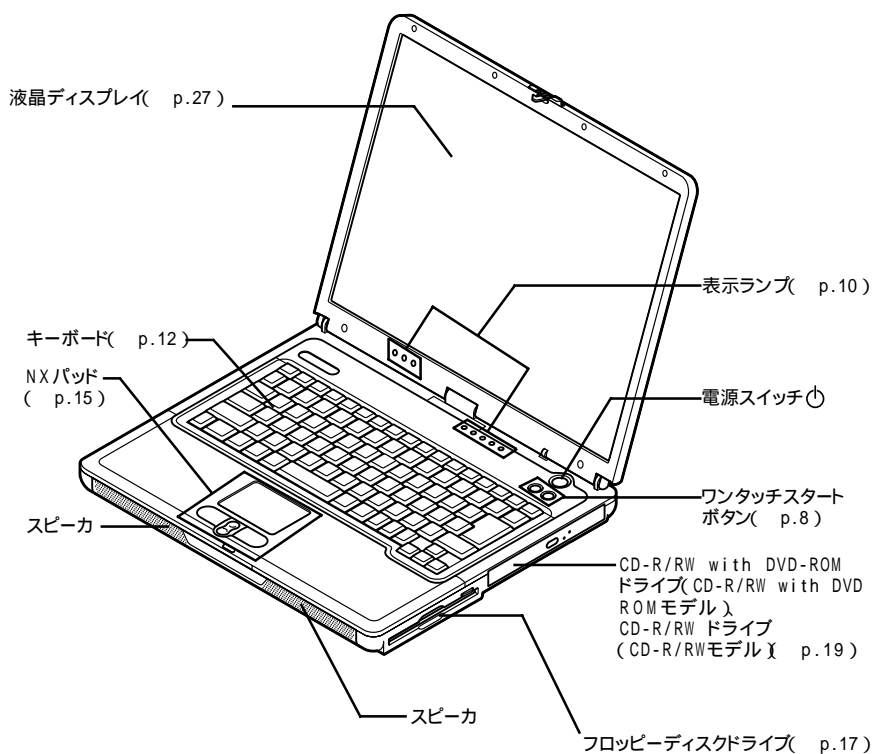
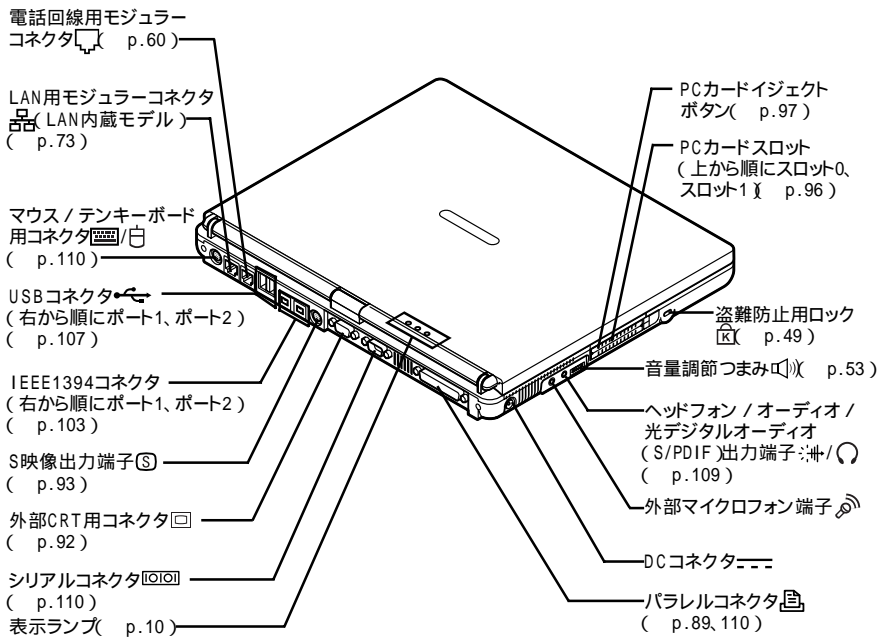
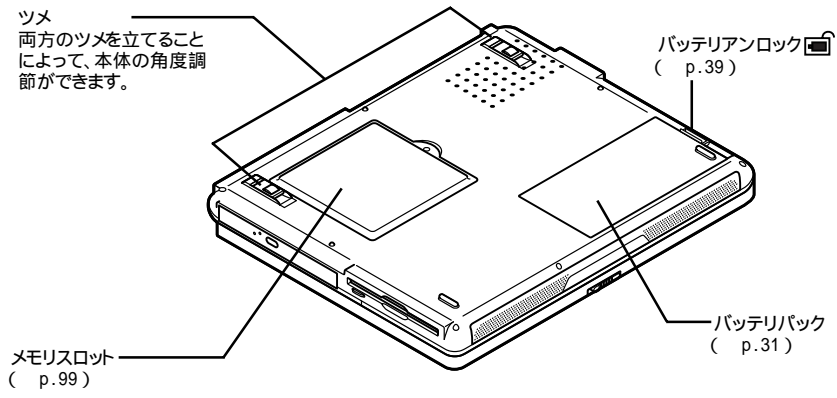
盗難防止用ロック(→p.49)

音量調節つまみ(→p.53)

ヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子/(→p.109)

外部マイクロフォン端子

DCコネクタ

パラレルコネクタ(→p.89、110)

■ 本体底面

LaVie L(14型モデル)

■ 本体前面/右側面

■ 本体背面／左側面

表示ランプ（→p.10）

DCコネクタ

シリアルコネクタ
（→p.110）

マウス／テンキーボード用
コネクタ
（→p.110）

USBコネクタ
（上から順にポート1、ポート2）
（→p.107）

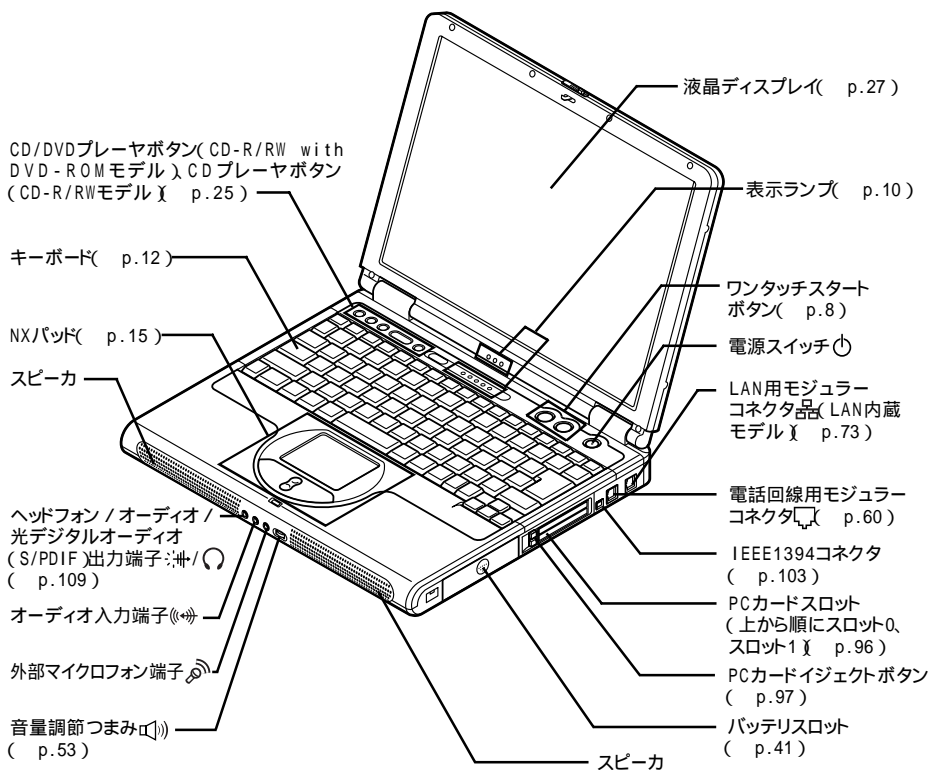
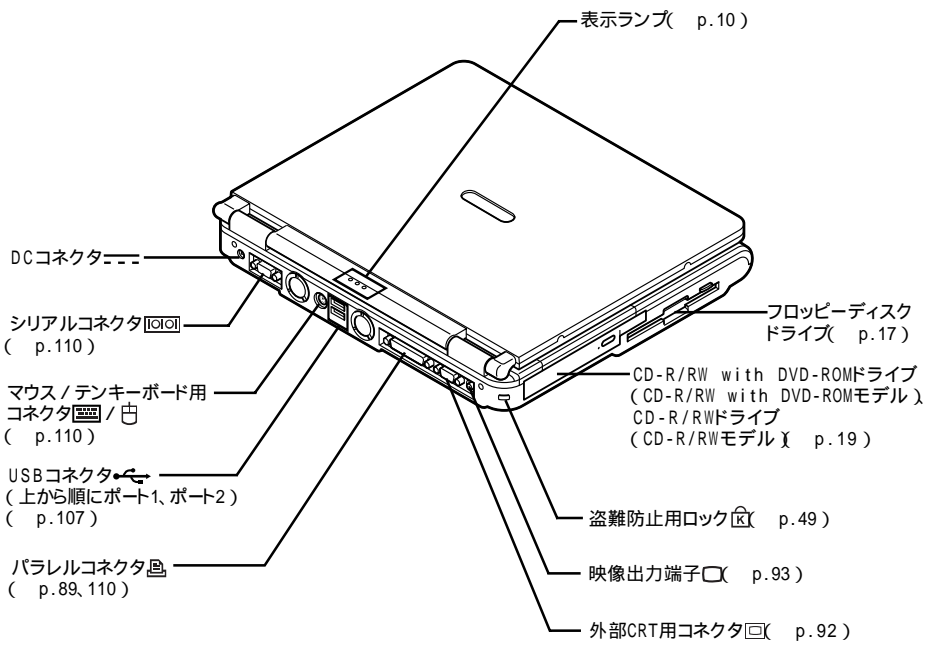
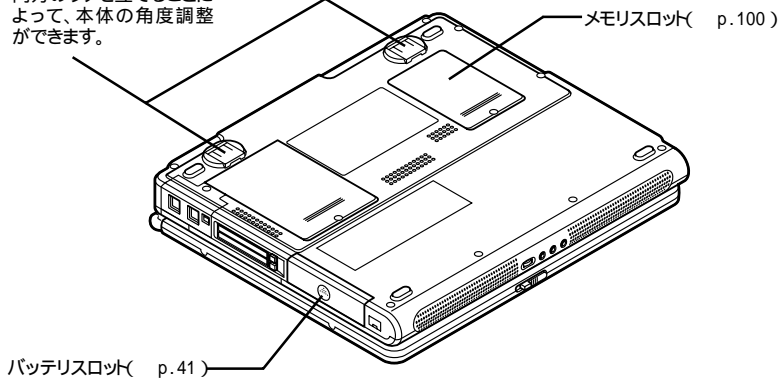
パラレルコネクタ
（→p.89、110）

フロッピーディスク
ドライブ（→p.17）

CD-R/RW with DVD-ROMドライブ
（CD-R/RW with DVD-ROMモデル）、
CD-R/RWドライブ
（CD-R/RWモデル）（→p.19）

盗難防止用ロック（→p.49）

映像出力端子（→p.93）

外部CRT用コネクタ（→p.92）

■ 本体底面

ボタン／スイッチ

ワンタッチスタートボタン

次の各ボタンをまとめて「ワンタッチスタートボタン」と呼びます。
ワンタッチスタートボタンを使うと、機能をすばやく実行することができます。

各ボタンの使いかた

表示	ボタンの名称	押すタイミング	機能
	【インターネット】ボタン	電源が切れているとき スタンバイ状態 休止状態 電源が入っているとき	インターネットに接続するためのボタンです。購入時の状態では「インターネット無料体験」または「インターネット接続ウィザード」が起動します。 設定を変更すると「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。
	【メール】ボタン	電源が切れているとき スタンバイ状態 休止状態 電源が入っているとき	メールのアプリケーションを起動するためのボタンです。購入時の状態では「Outlook Express」が起動します。インターネット接続の設定をしていない状態では、「インターネット接続ウィザード」ウィンドウが表示されます。

- セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンを使うことはできません。
- スタンバイ状態や休止状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したアプリケーションが起動しない場合があります。
  このような場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。
  - 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブの「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の☑をクリックして□にする
  - 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「ユーザーアカウント」→「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」の「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の☑をクリックして□にする
- パソコンの電源を切った状態からアプリケーションを起動させる場合、ユーザーアカウントを複数設定していると、ログオン画面でユーザーを選択する必要があります。また、パスワードを設定している場合は、ログオンユーザーのパスワードを入力する必要があります。

ワンタッチスタートボタンの設定をする

【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの機能は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って設定することができます。「ワンタッチスタートボタンの設定」では、それぞれのボタンを押したときに起動するアプリケーションを変更したり、ワンタッチスタートボタンの機能の有効／無効を切り替えることもできます。

参照

「ワンタッチスタートボタンの設定」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ワンタッチスタートボタンの設定」、または「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

CD/DVDプレーヤボタン(LaVie L(14型モデル)のみ)

CD/DVDプレーヤボタン(→p.6)は、音楽CDを再生したりDVD VIDEOディスクを再生する場合に利用します。詳しくは、「CD/DVDドライブ」の「音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する」(→p.25)をご覧ください。

表示ランプ

表示ランプの名称と役割

電源ランプ

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリ容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリ容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリ充電ランプ

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリリフレッシュを行ってください（→p.35）。

メール着信ランプ

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

ワイヤレスランプ（LaVie Cのみ）

ランプ	状態
緑点灯	2.4GHzワイヤレスLANが使用可能
消灯	2.4GHzワイヤレスLANが使用不可

アクセスランプ

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

データの読み書き中(アクセスランプ( )の点灯中)は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

フロッピーディスクアクセスランプ

ランプ	状態
緑点灯	フロッピーディスクにアクセス中
消灯	フロッピーディスクにアクセスしていない

キャップスロックキーランプ

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている(英字を入力すると大文字になります)
消灯	【Caps Lock】がロックされていない(英字を入力すると小文字になります)

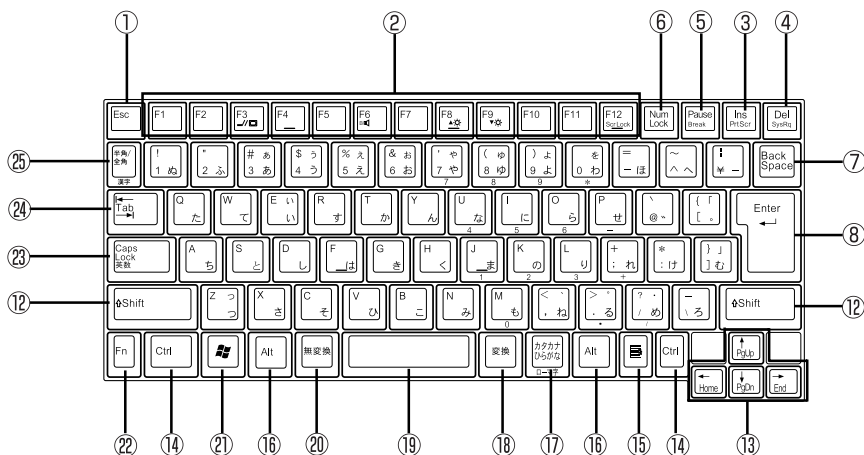
スクロールロックキーランプ

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている (キーを押すとキー前面の文字が入力されます)
消灯	【Num Lock】がロックされていない (キーを押すとキー上面の文字が入力されます)

キーボード

キーの名称

① 【Esc】: エスケープキー

② 【F1】〜【F12】: ファンクションキー

③ 【Ins】: インサートキー

④ 【Del】: デリートキー

⑤ 【Pause】: ポーズキー

⑥ 【Num Lock】: ニューメリックロックキー

⑦ 【Back Space】: バックスペースキー

⑧ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)

⑨ 【Home】: ホームキー

⑩ 【PgUp】: ページアップキー

⑪ 【PgDn】: ページダウンキー

⑫ 【Shift】: シフトキー

⑬ 【↑】【↓】【←】【→】: カーソル移動キー

⑭ 【Ctrl】: コントロールキー

⑮ 【 】: アプリケーションキー

⑯ 【Alt】: オルトキー

⑰ 【カタカナ ひらがな】: かなキー

⑱ 【変換】: 変換キー

⑲ スペースキー

⑳ 【無変換】: 無変換キー

㉑ 【 】: Windowsキー

㉒ 【Fn】: エフエヌキー

㉓ 【Caps Lock】: キャップスロックキー

㉔ 【Tab】: タブキー

㉕ 【半角/全角】: 半角/全角キー

キーの使いかた

特殊なキーを使う

キー操作	説　　明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ（ ）が点灯し、キー前面に黄色で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】＋【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ（ ）が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【半角／全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン／オフが切り替わります。
【Alt】＋【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します（→p.14）。
【 】	右クリックするのと同じ機能があります。
【 】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【 】＋【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【 】＋【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】＋【 】＋【M】	【 】＋【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【 】＋【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【 】＋【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】＋【 】＋【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【 】＋【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

キー操作	機　能	説　明
【Fn】+【F2】	ワイヤレス機能のオン／オフ(•◀︎)※1	2.4GHzワイヤレスLANを使用する／使用しないを切り替えます。
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え(▁/▭)	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※2→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります(→p.93)。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	ビープ音のオン／オフ(B◁)	ビープ音のオン／オフを設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる(▲☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる(▼☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【⊞】	右Windows	右【⊞】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【↑】※3	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】+【↓】※3	Page Down	【PgDn】の役割
【Fn】+【←】※3	Home	【Home】の役割
【Fn】+【→】※3	End	【End】の役割
【Fn】+【Home】※4	End	【End】の役割

※1：2.4GHzワイヤレスLAN機能は2.4GHzワイヤレスLANモデルのみで使用可能です。

※2：テレビが接続されているときのみ切り替わります。

※3：LaVie C、LaVie L(15型モデル)のみ使用可能です。

※4：LaVie L(14型モデル)のみ使用可能です。

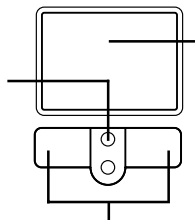
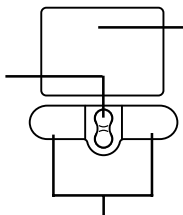
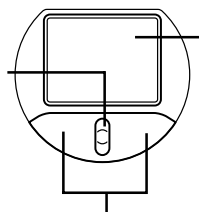
メモ

【Fn】+【F3】、【Fn】+【F5】、【Fn】+【F6】、【Fn】+【F12】の設定については、パソコンを起動するたびに設定をしなおす必要があります。

キーボードをより使いやすく設定する→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「キーボードの設定」

NXパッド

名称と役割

■ LaVie Cの場合

■ LaVie L(15型モデル)の場合

■ LaVie L(14型モデル)の場合

	名称	機能
①	パッド	ここで指をすべらせて、ポインタの移動などを行います。
②	スクロールボタン	このボタンを押すことで、画面をスクロールさせることができます。
③	クリックボタン	左右2つのボタンがあります。これらのボタンで操作の確定などを行います。

参照

- NXパッドの使いかたについて→「ぱそガイド」-「こんなときの操作集」-「NXパッドの使いかた」
- NXパッドをより使いやすく設定する→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「NXパッドの設定」

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下方向にスクロールさせたり、拡大縮小させることができます。

チェック

- スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。
- アプリケーションによっては、ポインタの位置によって動作が異なることがあります。

画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す

パッド側を押すと画面が上にスクロールし、手前側を押すと画面が下にスクロールします。また、スクロールボタンを押したままにすることで、連続して画面をスクロールすることができます。

イラストは、LaVie L(15型モデル)のものです。

ズーム機能を使う

アプリケーションによってはこの機能は使用できません。

1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす

2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す

パッド側を押すと画面の表示が拡大され、手前側を押すと縮小されます。

フロッピーディスクドライブ

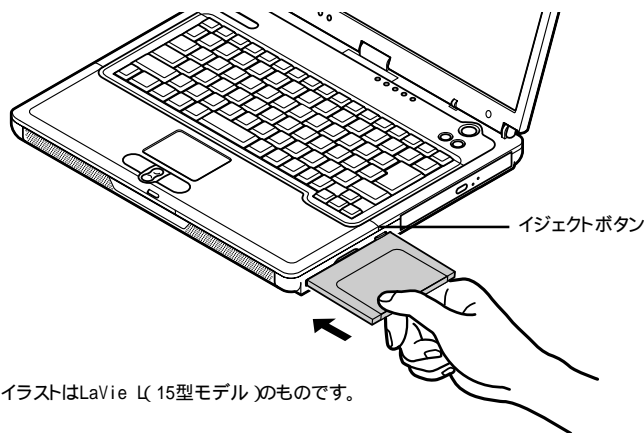
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

- このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、1.44Mバイトまたは720Kバイトでフォーマットされたフロッピーディスクを使用することができます。フロッピーディスクのフォーマットについては、Windowsのヘルプをご覧ください。
- このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- Windowsの「ディスクのコピー」、またはコマンドプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- 1.44Mバイト以外の容量でフロッピーディスクをフォーマットすることはできません。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた

フロッピーディスクをセットする

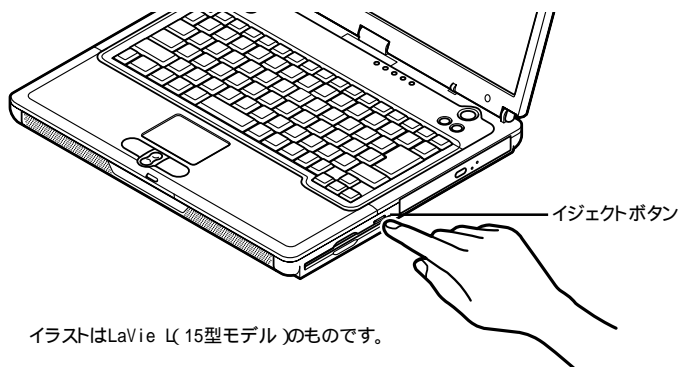
1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。

イラストはLaVie L(15型モデル)のものです。

フロッピーディスクを取り出す

・フロッピーディスクを取り出す際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。

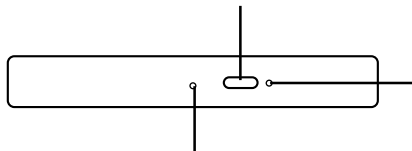
・フロッピーディスクを書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

1 **イジェクトボタンを押す**

フロッピーディスクが少し飛び出します。

イラストはLaVie L(15型モデル)のものです。

2 **フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す**

CD/DVDドライブ

名称と役割

	名称	機能
①	イジェクトボタン	ディスクトレイを出すためのボタンです。
②	非常時ディスク取り出し穴	イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合に使用します(→p.22)。
③	アクセスランプ	ディスクにアクセス中は点灯します。

メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

- **再生可能なディスク**
  音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD VIDEOディスク※
- **読み込み可能なディスク**
  CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM※
- **書き込み可能なディスク**
  CD-R、CD-RW
- **書き換え可能なディスク**
  CD-RW

※:CD-R/RW with DVD-ROM モデルのみ

CD/DVDドライブを使用するときの注意

・CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
・アクセスランプが点灯しているときは、絶対にディスクを取り出さないでください。故障の原因となります。
・ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となることがあります。また、ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に手に振動を感じることがあります。
・CD-Rへの書き込み時間やCD-RWへの書き換え時間は、使用するディスクによって、表示される書き込み／書き換え予想時間と異なることがあります。

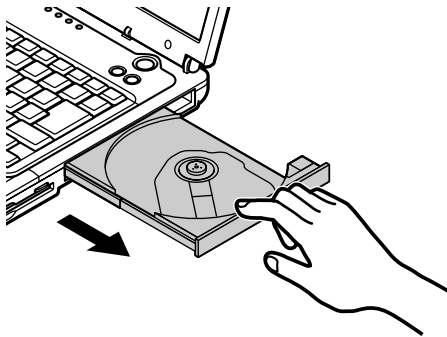
ディスクのセットのしかたと取り出しかた

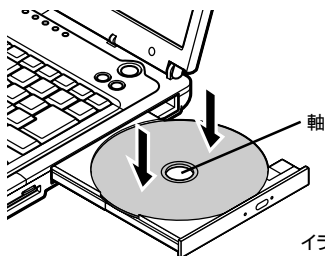
ディスクをセットする

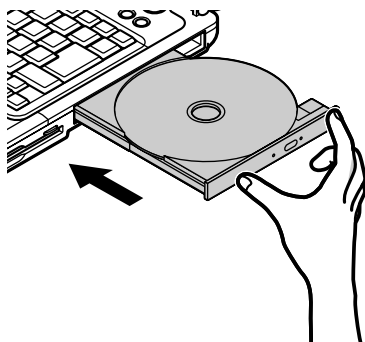
パソコンの電源が入っていない場合や、スタンバイ状態または休止状態の場合は、ディスクをセットすることはできません。

1 CD/DVDドライブのイジェクトボタン（→p.19）を押す

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 手でディスクトレイを静かに引き出す

イラストはLaVie L（15型モデル）のものです。

3 **ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、軸にしっかりはめ込む**

イラストはLaVie L（15型モデル）のものです。

4 **CD/DVDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す**

イラストはLaVie L（15型モデル）のものです。

メモ

CD/DVDドライブにディスクをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります（表示される内容は、使用するメディアによって異なります）。
このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の☒をクリックしてください。

ディスクを取り出す

メモ

パソコンの電源が入っていない場合や、スタンバイ状態または休止状態の場合は、ディスクを取り出すことはできません。

1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す

3 CD/DVDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

ディスクを取り出せなくなった場合は

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴(→p.19)に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

チェック

CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使わないようにしてください。

音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する

このパソコンでは、Jet-Audio Playerを使って音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生することができます。また、LaVie L(14型モデル)をお使いの場合は、CDプレイモードを使ってWindowsを起動せずに音楽CDを再生することができます。

チェック

- CD-R/RWモデルではDVD VIDEOディスクを利用することはできません。
- DVD VIDEOディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。
- コピーコントロールCDなど、一部の音楽CDは再生できない場合があります。

Jet-Audio Playerを使う

このパソコンには、音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生するためのアプリケーションとして、「Jet-Audio Player」がインストールされています。Windowsが起動しているときにディスクをセットすると、自動的にJet-Audio Playerが起動して再生がはじまります。

参照

「Jet-Audio Player」の使いかたについて→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「Jet-Audio Player」、または「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」

■ 音楽CDや音楽データをMDにダビングする

Jet-Audio Playerでは、音楽CDのほかに音楽データを再生することもできます。また、音楽CDや音楽データをMDに録音することもできます。MDデッキに接続する場合は、このパソコンのヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子(/)(LaVie Lのみ)(→p.5、6)に接続します。

チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。

参照

MDデッキを接続する→接続するMDデッキのマニュアル

■ DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する

このパソコンにテレビを接続すると、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示させることもできます。

参照

パソコンにテレビを接続する、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する→PART3の「外部ディスプレイ」(p.91)

CDプレイモードで音楽CDを再生する(LaVie L(14型モデル)のみ)

CDプレイモードとは、電源が入っていない状態または休止状態のときに、パソコンをオーディオ機器としてのみ使用するためのモードです。パソコンの電源が入っていない、または休止状態のときに、オーディオ電源スイッチ( )を操作することによりCDプレイモードになります。

スタンバイ状態からCDプレイモードにはできません。

■ CDプレイモードを使用しているときの注意

- CDプレイモードで音楽CDを再生中に電源スイッチを押すと、CDプレイモードは停止し、Windowsが起動します。
- バッテリのみで使用中に、CDプレイモードで音楽CDを再生していると、バッテリがなくなった時点で電源が切れます。このとき、バッテリ容量が残り少なくなったことを知らせる警告音は鳴りません。

■ CDプレイモードで音楽CDを再生する

1 パソコンの電源が入っていない、または休止状態のときに、オーディオ電源スイッチ( )(→p.25)を押す

2 CD/DVDドライブに音楽CDをセットする(→p.20)

音楽CDをセットすると、LCDインジケータに「1」と表示されます。これで再生の準備ができました。

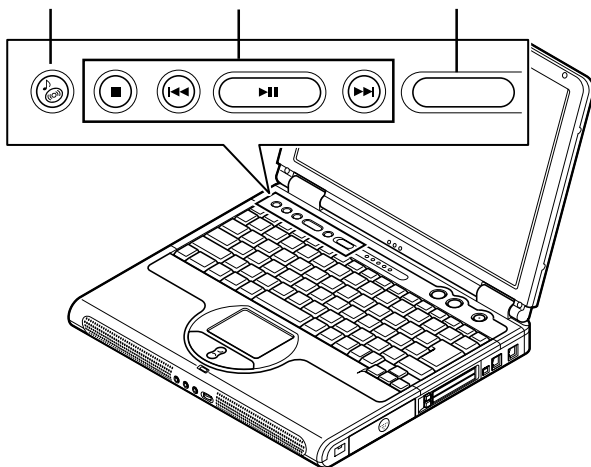
音楽CDをセットしてからLCDインジケータに「1」と表示されるまで数秒かかります。しばらくお待ちください。

3 CD再生ボタン(▶II)を押す

音楽CDの再生がはじまります。

- トラック(曲)を次や前に移動したいときや、再生を停止または一時停止したいときは、CD/DVDプレーヤボタンを利用してください。トラックを移動すると、LCDインジケータに現在のトラックナンバーが表示されます。
- 音量は、音量調節つまみで調節します(→p.53)。

CD/DVDプレーヤボタン(LaVie L(14型モデル)のみ)

CD/DVDプレーヤボタンを使って音楽CDやDVD VIDEOディスクの操作ができます。

① オーディオ電源スイッチ()

スイッチを押すとCDプレイモードが起動します。CDプレイモードを終了する場合は、スイッチをもう一度押します。

メモ

パソコンの電源が入っている場合はCDプレイモードにはなりません。

② CD/DVDプレーヤボタン

CD/DVDプレーヤボタンには次の機能があります。

ボタン	機能
I◀◀	前のトラックへ戻る 押し続けると巻き戻し※
▶▶I	次のトラックへ進む 押し続けると早送り※
■	停止
▶II	再生／一時停止

※:Jet-Audio Playerでのみ使用可能

③ LCDインジケータ

LCDインジケータには次のような内容が表示されます。

状態	表示内容
再生中	現在のトラックナンバー(曲番)
一時停止中	現在のトラックナンバー(曲番)が点滅
停止時	1
ディスクが入っていない／音楽CD以外のディスクがセットされている	― ―

メモ

LCDインジケータは、トラックナンバー以外はCDプレイモードでのみ表示されます。

チェック

- Windowsが起動している場合、CD/DVDプレーヤボタンは、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」でのみ使うことができます。
- ワンタッチスタートボタンが無効に設定されている場合は、CD/DVDプレーヤボタンでJet-Audio Playerを操作することはできません。

CD-RやCD-RWにデータを書き込む

「RecordNow DX」を使うと、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができます。また、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることもできます。

チェック

- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。
- コピーコントロールCDなど、一部の音楽CDでは音楽CDを作成できない場合があります。

参照

「RecordNow DX」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「RecordNow DX」

液晶ディスプレイ

解像度と表示色

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

チェック

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

このパソコンでは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

■ LaVie Cの場合

LC950、LC900、LG18SS、LG16SSは、UXGAタイプの液晶ディスプレイです。
LC700、LG14SS/GBは、SXGA+タイプの液晶ディスプレイです。
LH700、LC550、LC500、LG14SS/Bは、XGAタイプの液晶ディスプレイです。

解像度（ドット）	表示色	液晶ディスプレイのみに表示	別売のCRTディスプレイのみに表示	液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示※1	TVのみ
800×600	65,536色	○	◎	○	◎
	1,677万色※2	○	◎	○	◎
1,024×768	65,536色※3	◎	◎	◎	◎
	1,677万色※2	◎	◎	◎	◎
1,280×1,024	65,536色	△	◎	△	●
	1,677万色※2	△	◎	△	●
1,400×1,050	65,536色※4	□	―	―	―
	1,677万色※2	□	―	―	―
1,600×1,200	65,536色※5	▲	◎	▲	●
	1,677万色※2	▲	◎	▲	●

○：画面のまわりが黒く表示される（【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大表示可能）
◎：フルスクリーン表示可能
―：表示不可
△：UXGAタイプ、SXGA+タイプの場合はフルスクリーン表示可能。XGAタイプの場合はバーチャルスクリーン表示（→p.29）
▲：UXGAタイプの場合はフルスクリーン表示可能。SXGA+タイプ、XGAタイプの場合はバーチャルスクリーン表示（→p.29）
□：SXGA+タイプのみ表示可能

●：バーチャルスクリーン表示（→p.29）
※1：別売のCRTディスプレイ未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される
※2：このパソコンの液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現
※3：XGAタイプの購入時の設定
※4：SXGA+タイプの購入時の設定
※5：UXGAタイプの購入時の設定

■ LaVie Lの場合

解像度（ドット）	表示色	液晶ディスプレイのみに表示	別売のCRTディスプレイのみに表示	液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示※1	TVのみ
800×600	65,536色	○	◎	○	◎
	1,677万色※2	○	◎	○	◎
1,024×768	65,536色※3	◎	◎	◎	◎
	1,677万色※2	◎	◎	◎	◎
1,280×1,024	65,536色	△	◎	△	△
	1,677万色※4	△	◎	△	△
1,600×1,200	65,536色	△	◎	△	△

○：画面のまわりが黒く表示される（【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大表示可能）
◎：フルスクリーン表示可能
△：バーチャルスクリーン（→p.29）でのみ表示可能
※1：別売のCRTディスプレイ未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される
※2：このパソコンの液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現
※3：購入時の設定
※4：高（24ビット）のみ表示可能

メモ

320×200ドット、320×240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、このパソコンでは画面のまわりが黒く表示されます。

参照

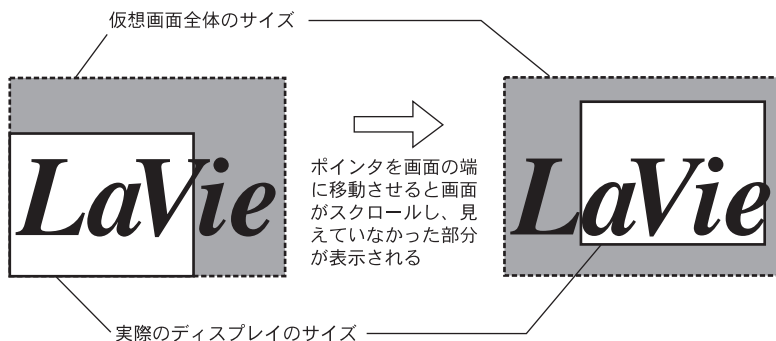
ディスプレイの解像度と表示色の設定→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」

輝度を調整する

このパソコンでは、キーボードを使って輝度調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機能	キー操作	説明
輝度を上げる(▲☼)	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる(▼☼)	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。ポインタを画面の端に移動して画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。画面をスクロールして表示させてください。

このパソコンの液晶ディスプレイでは、設定する解像度によってはバーチャルスクリーン表示になります。解像度については「解像度と表示色」(→p.28)をご覧ください。また、バーチャルスクリーンの設定について詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」をご覧ください。

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチとは、液晶ディスプレイの解像度よりもWindowsの解像度設定が低い場合に、液晶ディスプレイに画面を拡大して表示する機能です。
ディスプレイストレッチ機能の設定について詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」をご覧ください。

メモ

低解像度で表示時に、【Fn】+【F5】を押して画面を拡大表示する/しないを切り替えることもできます。購入時には拡大表示に設定されています。

バッテリ

バッテリパックについて

・本機はニッケル水素電池またはリチウムイオン電池を使用しています。
・ニッケル水素電池またはリチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
・交換後不要になった電池、及び使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、以下の拠点に設置した充電式電池回収BOXに入れてください。
　ー個人ユーザ様：充電式電池リサイクル協力店くらぶ
　※詳細は、電池工業会ホームページ(http://www.baj.or.jp/)をご覧ください。
　ー法人ユーザ様：NEC法人向け二次電池持ち込み拠点
　※詳細は、NEC環境ホームページ(http://www.nec.co.jp/japanese/profile/kan/index.html)をご覧ください。
・リサイクル協力店のお問い合わせは、下記へお願いします。
　ー製品、ニッケル水素電池またはリチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
　ー(社)電池工業会小形二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局
・リサイクル時のご注意
　ー電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
　ー外装カバー(被覆・チューブなど)をはがさないでください。
　ー電池を分解しないでください。

バッテリのみで使う

このパソコンは、ACアダプタを使用せずにバッテリだけで駆動することができます。バッテリだけでの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。

省電力機能について→このPARTの「省電力機能」(p.43)

さらに次のような点に気をつけると、バッテリパックを長持ちさせることができます。
・バッテリの残量をできるだけなくしてから充電する
・充電はフル充電(バッテリ充電ランプが消灯)になるまで中断しない
・定期的にバッテリリフレッシュを実行する(→p.35)

- このパソコンを1カ月以上使わないときは、バッテリパックを取り外して、涼しいところに保管する
- バッテリは自然放電していますので、使用していない場合でも2〜3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリを充電する

チェック

- バッテリの充電中は、バッテリパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- 購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- 充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリ残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリ残量に誤差が生じることがあります。

バッテリの充電のしかた

バッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電がはじまります。
バッテリの充電状態は、バッテリ充電ランプ（ ）で確認することができます（→p.10）。

メモ

- パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリは充電されます。
- 充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18〜28℃での充電をおすすめします。

参照

バッテリの充電時間について→PART5の「本体機能一覧」（p.125）

バッテリの残量を確認する

バッテリ残量は、次の方法で確認することができます。

● 画面右下の通知領域で確認する

の上にポインタを合わせると、バッテリ残量が表示されます。また、をダブルクリックすると、より詳しい情報が表示されます。

アイコンはバッテリの残量によって異なります。
画面はモデルによって異なります。

● 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックし、表示された「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブで確認する

バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなった場合は

バッテリの残量が少なくなると、電源ランプ( )が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

● ACコンセントから電源を供給できる場合
ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。 ACコンセントから電源を供給すると、バッテリ充電ランプ( )が点灯し、バッテリの充電がはじまります。また、バッテリを充電しながらパソコンを使用することもできます。

● ACコンセントが使えない場合
使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。

上記の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリ残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態（→p.46）になります。
また、パソコンをバッテリのみで使用している場合は、バッテリ残量が少なくなったときにパソコンをどのような状態にするかを設定しておくこともできます。設定のしかたは、次の「バッテリ残量が少なくなったときの動作の設定」をご覧ください。

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリ残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリのみで使用している場合、バッテリ残量が少なくなったときにどのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。

次の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでこのパソコンにログオンしてください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「アラーム」タブをクリックする

3 バッテリ残量が少ないとき（バッテリ低下アラーム）と、バッテリ残量がわずかなとき（バッテリ切れアラーム）に、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する
「アラームの動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。

4 「OK」ボタンをクリックする

バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュは、一時的に低下したバッテリの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリリフレッシュを実行してください。

● バッテリでの駆動時間が短くなった
バッテリを完全に使い切らない状態で充電をくりかえしていると、バッテリの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これをバッテリの「メモリ効果」と呼びます。

● 購入直後や、長期間の放置で、バッテリの性能が一時的に低下した

● バッテリの残量表示に誤差が生じている

バッテリリフレッシュの実行

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る

2 バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける（→p.40、42）

3 パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度ACアダプタとバッテリパックを本体から外して、再度取り付けてください。

4 バッテリをフル充電（バッテリ充電ランプが消灯した状態）まで充電する

5 BIOSセットアップユーティリティを起動する（→p.112）

6 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す

7 【→】を使って「終了」メニューを選び、【↓】を使って「バッテリリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す

8 「実行しますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す

・LaVie C、LaVie L(15型モデル)の場合
次のような画面が表示されたら、手順9に進んでください。

```
Refresh battery program
Press Y to start refresh, N to exit
<ESC> to shutdown system
```

・LaVie L(14型モデル)の場合
次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュがはじまります。
手順9を行う必要はありません。

```
Battery Refresh Now(95% LEFT)……Don't close Display……Press ESC Key to Cancel
```

9 【Y】を押す

バッテリリフレッシュがはじまります。

バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

バッテリリフレッシュが完了し、バッテリ内の電力がなくなると自動的にパソコンの電源が切れます。

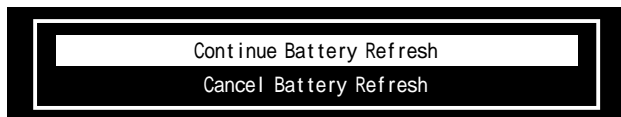
バッテリリフレッシュを中断する

■ LaVie C、LaVie L(15型モデル)の場合

バッテリリフレッシュを中断するときは、【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押してWindowsを再起動してください。

電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリリフレッシュを中断することができます。この場合は、パソコンの電源が切れます。

■ LaVie L（14型モデル）の場合

1 【Esc】を押す
次のようなメッセージが表示されます。

2 【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す
Windowsが再起動します。

メモ

- バッテリリフレッシュ中にパソコンの電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリリフレッシュを続ける場合はACアダプタを取り外し「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリリフレッシュが中断し、Windowsが再起動します。
- 電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリリフレッシュを中断することができます。この場合は、パソコンの電源が切れます。

バッテリパックを交換する

交換の目安

フル充電（バッテリを充電してバッテリ充電ランプ（）が消灯した状態）にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュ（→p.35）を行ってください。それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

■ 交換用のバッテリパック

このパソコンに取り付けられる交換用バッテリパックは次のとおりです。

モデル名	品名	型番
LaVie C	バッテリパック(ニッケル水素)	PC-VP-WP37
	バッテリパック(リチウムイオン)	PC-VP-WP38
LaVie L(15型モデル)	バッテリパック(ニッケル水素)	PC-VP-WP21※
	バッテリパック(リチウムイオン)	PC-VP-WP22
LaVie L(14型モデル)	バッテリパック(ニッケル水素)	PC-VP-WP40
	バッテリパック(リチウムイオン)	PC-VP-WP39

※:別売のバッテリパック(PC-VP-WP21)をお使いになる場合、休止状態(ハイバネーション)が正しく動作しない場合があります。そのような場合は、「http://121ware.com」の「レスキュー」-「ダウンロード」より修正プログラムをダウンロードし、バッテリパックに内蔵されている情報の更新を行ってから使用してください。

メモ

リチウムイオンバッテリパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリパックを取り付けた場合よりも、バッテリ駆動時間が長くなります。

バッテリパックの交換のしかた

チェック

- バッテリパックの交換を行う際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。 接触不良の原因となります。
- スタンバイ状態のときにバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。 電源ランプ(⏻)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してから「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切ってください。
- 特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

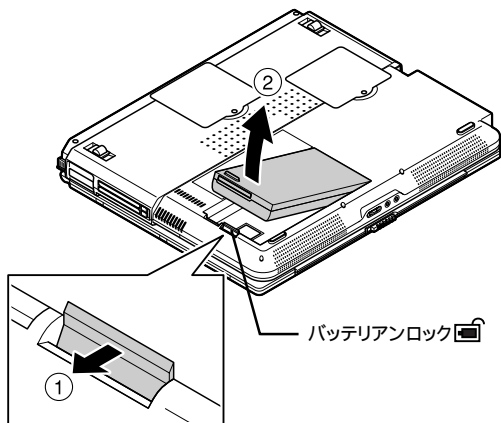
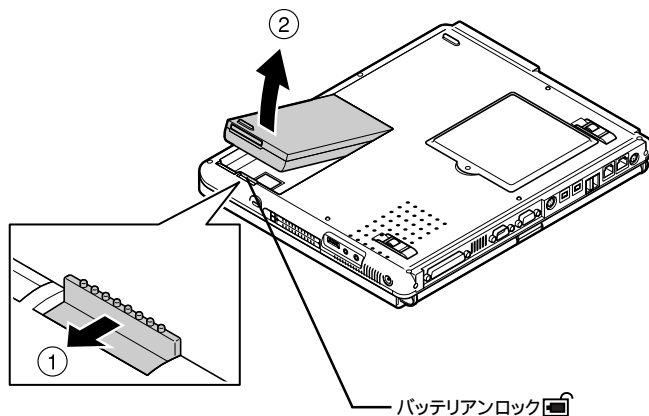
■ LaVie C、LaVie L(15型モデル)の場合

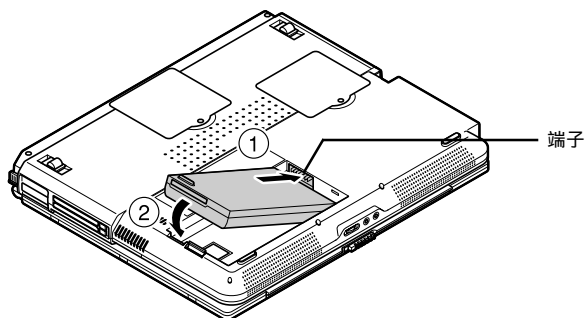
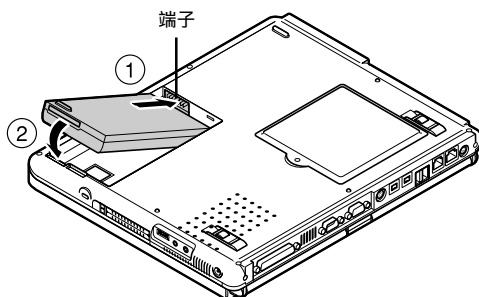
1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す

3 **液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す**

4 **バッテリパックの横にあるバッテリアンロック( )を矢印の方向にスライドさせ、スライドさせたままの状態でバッテリパックを取り外す**

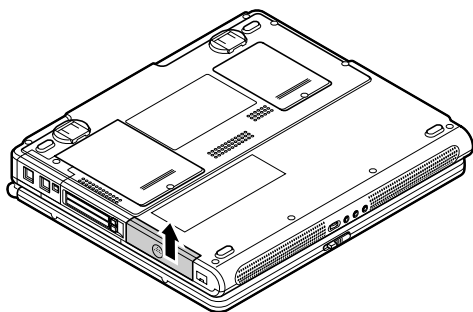
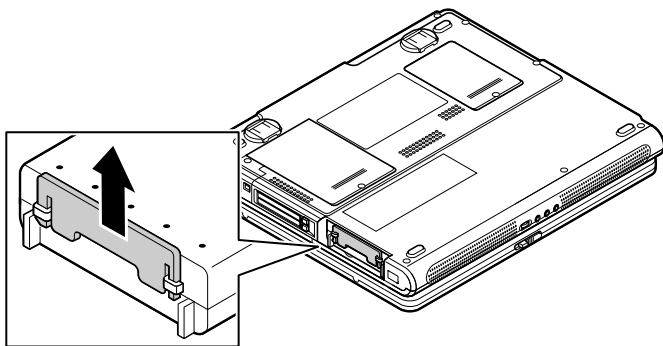
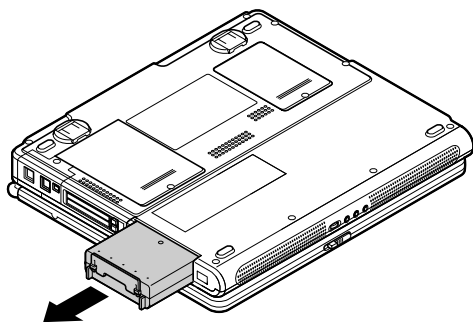
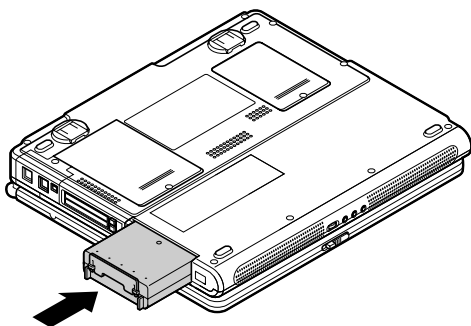
・**LaVie Cの場合**

・**LaVie L(15型モデル)の場合**

5 新しいバッテリパックを端子の位置に注意してバッテリスロットにセットし、バッテリパックを端子側にスライドさせてから倒し込む

・LaVie Cの場合

・LaVie L(15型モデル)の場合

■ LaVie L(14型モデル)の場合

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 バッテリスロットカバーを取り外す
カバーのくぼみを少し押して、図の矢印の方向にスライドさせながら取り外してください。

5 バッテリパックの取っ手部分を引き上げる

6 バッテリパックを矢印の方向にスライドさせて取り外す

7 新しいバッテリパックを取り付ける
バッテリパックの向きに注意して矢印の方向にスライドさせ、奥までしっかり取り付けてください。

8 バッテリスロットカバーを取り付ける

省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。
このパソコンの省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。このパソコンでの省電力機能の設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」で行います。

省電力機能を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- プリンタへ出力中
- 通信用アプリケーションを実行中
- LANまたはワイヤレスLANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
- 電話回線を使って通信中
- 音声または動画を再生中
- ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- 「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
- Windowsの起動/終了処理中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。
- バッテリのみで使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ駆動時にバッテリ残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかなどの設定もできます(→p.49)。
- スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたままスタンバイ状態または休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。スタンバイ状態または休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。
- 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックして各設定を変更する場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。
- メモリを増設した後に休止状態の機能を利用する場合は、増設したメモリ容量分のハードディスクの空き容量が必要になります。あらかじめハードディスクの容量を確認しておいてください。確認のしかたについて詳しくは、「ぱそガイド」-「困ったときのQ&A」-「省電力機能」-「スタンバイ状態または休止状態にできない」をご覧ください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。

・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
・タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、パソコンはスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。
・スタンバイ状態または休止状態から復帰後、デバイスの警告メッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。

スタンバイ状態（サスペンド）

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ（⏻）が緑色に点滅します。

● 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「スタンバイ」ボタンをクリックする

● バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

ほかにも、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブで設定を行うと、次のような方法でスタンバイ状態にするように設定できます。

● 電源スイッチを押す
「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

● 液晶ディスプレイを閉じる
「詳細設定」タブで、「ポータブル コンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。

スタンバイ状態の設定をする

■「電源設定」で設定をする

「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の「電源設定」タブでは、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 表示された画面の下段のそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何も入力がないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何も入力がないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

メモ

画面の下段の「××の電源設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態（ハイバネーション）

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。
データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

休止状態にする

次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ（⏻）が消灯し、パソコンの電源が切れます。

●「スタート」ボタン→「終了オプション」を使って休止状態にする

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックする

2 【Shift】を押しながら「休止状態」ボタンをクリックする
【Shift】を押すと「スタンバイ」ボタンが「休止状態」ボタンに切り替わります。

● バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、次のいずれかの方法で休止状態にするように設定できます。

● 電源スイッチを押して休止状態にする

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「休止状態」タブをクリックする

3 「休止状態を有効にする」が☑になっていることを確認する

4 「詳細設定」タブをクリックする

5 「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

● 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1〜4を行う

2 「電源ボタン」欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

スタンバイ状態や休止状態から復帰させる

スタンバイ状態や休止状態から復帰させることを「復帰」または「レジューム」といいます。

スタンバイ状態からの復帰

電源スイッチを押すとスタンバイ状態から復帰し、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンをお使いの場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。スタンバイ状態から復帰します。

メモ

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰させることができます。また、タスクスケジューラを使って時刻を指定して復帰させることもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

休止状態からの復帰

電源スイッチを押すとパソコンの電源が入り、「Windows を再開しています...」と表示された後、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンをお使いの場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。休止状態から復帰します。

セキュリティ機能

このパソコンのセキュリティ機能

このパソコンには、次のようなセキュリティ機能があります。

● パスワード

パスワードを設定することにより、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止することができます。

● ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

起動セクタへの書き込みを禁止することにより、パソコンの起動に必要なファイルへのウイルス感染を防止することができます(→p.118)。

● 盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロック(→p.3、5、7)に別売のセキュリティケーブル(PK-SC/CA02)を取り付け、盗難を防止することができます。

チェック

- 当社製セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)は本機では使用できませんので注意してください。
- セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの使用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップユーティリティで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- BIOSセットアップユーティリティの起動と設定変更
- パソコンの起動

チェック

- 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などにこのパソコンの修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

パスワードを忘れてしまった→『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

● スーパバイザパスワード

スーパバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。
パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップユーティリティを起動できなくなります。

● ユーザパスワード

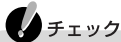
ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないとパソコンを使用できなくなります。

パスワードを設定する

スーパバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップユーティリティで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップユーティリティを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップユーティリティを起動することができなくなります。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する(→p.112)

2 「セキュリティ」メニューを選ぶ

3 【↓】を使って「スーパバイザパスワード設定」または「ユーザパスワード設定」を選ぶ

スーパバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 【Enter】を押す
パスワード設定の画面が表示されます。

5 パスワードを入力する

ニューメリックロックキーランプ（[1]）が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z（大文字／小文字の区別はありません）と半角数字の0～9だけです。

6【Enter】を押す

7 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する

8【Enter】を押す

9「セットアップ通知」のメッセージが表示されるので、いずれかのキーを押す

10 設定を保存して、BIOSセットアップユーティリティを終了する

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップユーティリティ起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

■ パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する（→p.112）

2「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を選ぶ

3「使用する」を選ぶ

4 BIOSセットアップユーティリティを終了する

パスワードを入力する

■ パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力してください。 [_]

2 設定されているパスワードを入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

チェック

- 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ(⏻)を押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、どちらのパスワードでも復帰することができます。
- 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。

サウンド機能

音量を調節する

音量調節つまみを使う

■ LaVie C、LaVie L(14型モデル)の場合

音量を上げたいときは音量調節つまみ( )(→p.2、6)を右側に回し、下げたいときは左側に回します。

■ LaVie L(15型モデル)の場合

音量を上げたいときは音量調節つまみ( )(→p.5)を本体の背面側に回し、下げたいときは本体の前面側に回します。

ボリュームコントロールを使う

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリューム コントロール」を開くと、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

ビープ音のオン/オフを切り替える

キーボードの【Fn】+【F6】を押すと、ビープ音のオン/オフを切り替えることができます。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について(LaVie Lのみ)

このパソコンのヘッドフォン/オーディオ/光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子に光デジタル入力端子を持ったオーディオ機器を接続し、音楽を再生したりMDなどにデジタルで録音することができます。

メモ

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしたがってください。

ヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子からは、WAVE出力、MIDI出力、音楽CDなどのデジタル再生音を出力することができます。別売のサラウンド5.1chスピーカ・システムを接続することにより、DVD VIDEOディスク再生時に5.1chのDolby Digitalを出力することができます。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
非公開機密著作物。著作権1992－1999年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力機能を利用するには

■ 光デジタル入力端子を持つオーディオ機器を接続する

このパソコンのヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子と、市販の光デジタル入力端子を持つオーディオ機器を接続するには、別売の光デジタル接続ケーブルが必要です。

市販の光デジタル接続ケーブルを購入する際は、このパソコンのヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子の形状と、接続するオーディオ機器の光デジタル入力端子の形状を確認してください。

光デジタル接続ケーブルを接続する→接続するオーディオ機器のマニュアル

■ 光デジタルで出力できる設定になっていることを確認する

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力端子から光デジタル出力ができる設定になっていることを確認してください。出力できない設定になっている場合は設定を変更してください。

光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力するための設定について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「サウンドの設定」-「MDデッキやAVアンプで使う」

音楽CDからのデジタル出力設定

音楽CDからのデジタル出力を行う場合は、デジタル出力できる設定になっていることを確認してください。出力できない設定になっている場合は設定を変更してください。

参照

音楽CDからのデジタル出力をするための設定について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「サウンドの設定」

メディア用ポケット(LaVie Cのみ)

メディア用ポケットで使える機器

このパソコンのメディア用ポケットでは、InfoAudio／マジックゲート　メモリースティック　アダプタ／SDメモリーカードアダプタのいずれかを使用し、「マジックゲート　メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使用することができます。

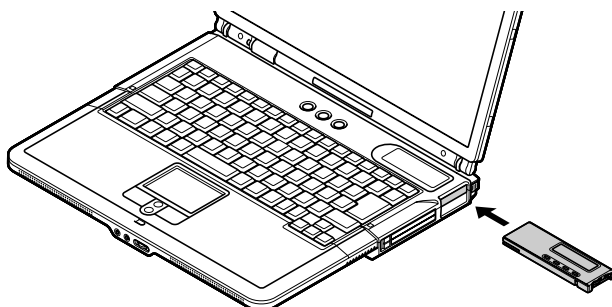
InfoAudioが添付されている場合、詳しい使いかたについては『InfoAudioを使ってみよう』をご覧ください。アダプタが添付されているモデルの場合、詳しい使いかたについては『「メモリースティック」を使ってみよう』／『「SDメモリーカード」を使ってみよう』をご覧ください。
アダプタが添付されていないモデルの場合、「インナーシートホルダー」が取り付けられています。「メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使用するには、別売のアダプタが必要です。

型名	名称
PC-VP-WU15	InfoAudio(インフォオーディオ)
PC-VP-WU08X	マジックゲート　メモリースティック　アダプタ
PC-VP-WU09X	SDメモリーカードアダプタ

メディア用ポケットへの機器の取り付けかたと取り外しかた

ここではInfoAudioを例に説明しています。

機器を取り付ける

1 InfoAudioをパソコンのメディア用ポケットに奥までしっかり差し込む

機器を取り外す

1 「周辺機器の取り外しと再接続」(→p.87)の手順1～4を行う
インナーシートホルダーを取り外す場合は、この手順は必要ありません。手順2に進んでください。

2 メディア用ポケットイジェクトスイッチを本体背面側にスライドさせる

InfoAudioが飛び出します。

3 InfoAudioを水平に引き抜く

PART

2

通信機能

このパソコンを、一般の電話回線、携帯電話やPHS、ネットワークなどに接続して使う方法を説明します。
また、お使いのモデルによっては、ワイヤレスLANを使用できるモデルもあります。

モデム

電話回線に接続する

内蔵FAXモデムと電話回線を接続すると、インターネットやメールの利用、FAXの送受信などができるようになります。

3ピンプラグ式コンセントの場合は、市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、モジュラージャック方式への変更が必要です。また、直結配線方式の場合は、モジュラージャック方式への変更が必要です。
モジュラージャック方式への変更についてはNTTに相談してください。

パソコンを電話回線に接続する

このパソコンに電話回線を接続する場合は、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体の電話回線用モジュラーコネクタ（）（→p.3、5、6）と電話回線を接続してください。

電話回線に接続する→『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りない場合は、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。

内蔵FAXモデムは、一般加入電話回線に適合するように設計されています。一般加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する

電話回線のモジュラージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを利用し、パソコンと電話機の両方を接続することができます。

- 分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機が同時に電話回線を使用することはできません。
- パソコンで通信中は、電話機の受話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。

内蔵モデムを使用するときの注意

- このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については「ぱそガイド」をご覧ください。
- 内蔵FAXモデムは一般加入電話回線のみに対応しています。一般加入電話回線以外に接続すると、パソコン本体の故障、発熱の原因になることがありますので注意してください。
- 構内交換機（PBX）の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。構内交換機（PBX）が、NTTの一般加入電話回線と同等であることを確かめてください。
- 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ダイヤルアップネットワーク接続の場合、Internet Explorerを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する必要がある場合は、画面右下の通知領域にあるをクリックし、表示された画面から「切断」ボタンをクリックしてください。
- コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- このパソコンの内蔵FAXモデムは、海外では使用できません。
- 回線を使って通信中は、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。

・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了してください。
・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。

ATコマンドについて→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ATコマンド」

モデムを使用するための設定にする

プロバイダなどへの接続先を、モデムを使用した接続設定にする場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」→「ネットワーク接続」をクリックする

2 ダイヤルアップの接続設定をしているアイコンをダブルクリックする

3 「プロパティ」ボタンをクリックする

4 「全般」タブをクリックし、「接続方法」欄で次のものを選ぶ
・Lucent Technologies Soft Modem AMR

5 「OK」ボタンをクリックする

6 ウィンドウの右上の☒をクリックしてウィンドウを閉じる

インターネットへの通信環境を切り替える

「ネット簡単切替ツール」を使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。
パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。

「ネット簡単切替ツール」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ネット簡単切替ツール」、または「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ネット簡単切替ツール」→「ネット簡単切替ツール ヘルプ」

テレビ電話

テレビ電話とは

ヘッドフォンマイクとUSBカメラを使うとテレビ電話が利用できます。テレビ電話では音声だけでなく、USBカメラを使って映像も同時に送受信できるので、相手の表情を見ながら会話をしたり、音声だけでは伝えきれない内容を映像で伝えることができます。
ヘッドフォンマイクやUSBカメラが添付されていないモデルでテレビ電話を利用する場合は、別売のインターネットTV電話セット(PC-VP-WS06)が必要です。

ヘッドフォンマイクとUSBカメラを接続する

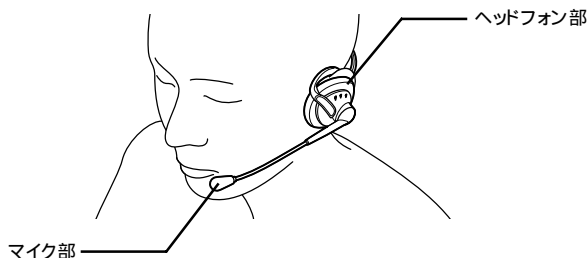
ヘッドフォンマイクを接続する

ヘッドフォンマイクを接続／使用する際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。

■ 接続のしかた

1 ヘッドフォンマイクの黒いプラグをヘッドフォン／オーディオ出力端子( )(→p.2)またはヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子(/)(→p.5、6)に、桃色のプラグを外部マイクロフォン端子( )(→p.2、5、6)に接続する

■ 装着のしかた

ヘッドフォンマイクを使用するときは、後頭部から両耳にヘッドフォン部をかけて図のように装着し、マイク部を口元に向けます。

USBカメラを接続する

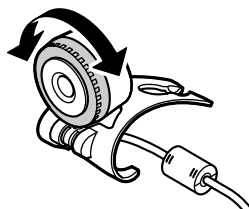
■ USBカメラの接続と調整

1 USBカメラのケーブルをパソコン本体のUSBコネクタ( )(→p.3、5、7)に接続する

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「Windows ムービー メーカー」をクリックする

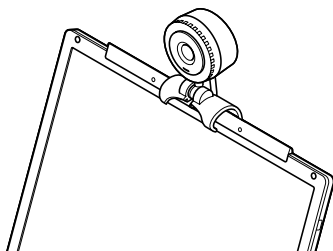
3 「ファイル」メニューの「録画/録音」をクリックする

USBカメラの映像が表示されます。

4 映像がぼやけている場合は、図の部分を回してピントを調整する

メモ

回しきった場合は反対方向へ回してください。同じ向きに無理に回すと、故障の原因となることがあります。

■ USBカメラを設置する

USBカメラは、液晶ディスプレイや机の上などに設置することができます。液晶ディスプレイに設置する場合は、図のように液晶ディスプレイに脚部を掛けて設置することができます。

テレビ電話をはじめる

テレビ電話は、「Windows Messenger」を使って行います。
Windows Messengerの使いかたや設定のしかたについて詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「Windows Messenger」をご覧ください。

インターネット電話を使う

BIGLOBEのサービス「dialpadインターネット電話」を利用すると、インターネット経由で電話をかけることもできます。パソコン同士でインターネット電話するだけでなく、日本、アメリカ、韓国、ヨーロッパ、中国（北京・上海）の一般の電話にも電話をかけることができます。

メモ

dialpadインターネット電話については、BIGLOBEのホームページをご覧ください。
http://phone.biglobe.ne.jp/

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話またはPHSと接続する

このパソコンに携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。
このパソコンに携帯電話やPHSを接続する場合には、次のような別売の携帯電話接続ケーブルやPHS接続ケーブルが必要です(LaVie Gシリーズで、それぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

- 携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
- cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- PHS(NTTドコモ／アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

http://121ware.com/

接続の方法

このパソコンに携帯電話またはPHSを接続する方法は、次のとおりです。

携帯電話またはPHSを接続する際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。

1 携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する

プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。

2 パソコンのUSBコネクタ（ ）（→p.3、5、7）に、接続ケーブルのプラグを接続する

プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

接続ケーブルのプラグは、どのUSBコネクタに接続してもかまいません。USBコネクタへの接続について詳しくは、PART3の「USB対応機器」（→p.106）をご覧ください。

携帯電話／PHS接続機能を使用するときの注意

- このパソコンでは、購入時にインストールまたは添付されているアプリケーションのみ使用できます。携帯電話用に市販されているアプリケーションを使用することはできません。
- ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。

ATコマンドについて→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ATコマンド」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にする場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」→「ネットワーク接続」をクリックする

2 ダイヤルアップの接続設定をしているアイコンをダブルクリックする

3 「プロパティ」ボタンをクリックする

4 「全般」タブをクリックし、「接続方法」欄で次のものを選ぶ

・SunComm MultiMobile3 USB

5 「OK」ボタンをクリックする

6 ウィンドウの右上の をクリックしてウィンドウを閉じる

お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また、専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

携帯電話またはPHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールを利用する場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。

メモ

ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

ネット簡単切替ツールを使うと、使用する場所にあわせてダイヤル設定を切り替えることができます。
ネット簡単切替ツールでアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。
一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。
外出先でも快適に利用するために、以降の説明を読んで必要な設定を行ってください。

外出先に最も近いアクセスポイントをあらかじめ調べておく

ネット簡単切替ツールでアクセスポイントを登録する
外出先に最も近いアクセスポイントを設定します。
BIGLOBE会員の方は、「BIGLOBEかんたん接続ナビ」で最も近いアクセスポイントを設定することができます。

ネット簡単切替ツールで接続先を切り替える
これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。

外出先から帰ったら、インターネット接続の設定を元に戻す
ネット簡単切替ツールでインターネット接続の設定を自宅の設定に戻します。

メモ

- アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることになります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- 「BIGLOBEかんたん接続ナビ」でアクセスポイントを変更する→「ぱそガイド」-「BIGLOBE入会案内」

参照

「ネット簡単切替ツール」について→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ネット簡単切替ツール」、または「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ネット簡単切替ツール」→「ネット簡単切替ツール　ヘルプ」

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯電話／PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

データ通信を利用する場合は、アクセスポイントが利用するデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。

データ通信の種類		必要な接続ケーブル	ダイヤルアップの接続の設定
cdmaOne※1		cdmaOne接続ケーブル（PC-VP-WK06）	必要ありません。
NTTドコモ	DoPaサービス（パケット通信サービス）	携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル（PC-VP-WK05）	電話番号の最後に「##02」を追加する※2
	PHS（64K対応機種）	携帯電話（NTTドコモ/アステル）接続ケーブル（PC-VP-WK07）	電話番号の最後に「##4」を追加する
	ドッチーモ（PIAFS64K機種）※3	携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル（PC-VP-WK05）	電話番号の最後に「##4」を追加する
	ドッチーモ（PIAFS32K機種）※3	携帯電話（DoPa/PDC）接続ケーブル（PC-VP-WK05）	電話番号の最後に「##3」を追加する※4
DDIポケット	PIAFS32K対応電話機	PHS（DDIポケット）接続ケーブル（PC-VP-WK08）	電話番号の最後に「##3」を追加する※4
	H"（エッジ）	PHS（DDIポケット）接続ケーブル（PC-VP-WK08）	電話番号の最後に「##4」を追加する※5

※1：データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードを利用する場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

※2：DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

※3：ドッチーモでPIAFS通信を行う場合は、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。

※4：NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

※5：一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがありますが、32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

・電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合

・回線が混雑している場合

携帯電話と連携して使う

携帯電話に登録してある情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録してある電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集することができます。また、着信メロディやメールの編集もできます。編集作業には「携快電話, Win」を使います。

参照

「携快電話, Win」について→携快電話, Winのそれぞれのツールのヘルプ、または「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「携快電話, Win」

iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う

予定表や連絡先をホームページ上で入力したり、作成した画像データなどをあらかじめホームページに登録しておき、そのデータをiモード機能を備えている携帯電話を使って閲覧することができます。

チェック

携帯電話でデータを閲覧するためには、iモード機能を備えた市販の携帯電話が必要です。

● 予定表や連絡先などを携帯電話で見たい

NEC PCオーナーズスケジューラが利用できます。PCオーナーズスケジューラは、スケジュール管理やアドレス帳として利用することができます。詳しくはNEC PCオーナーズスケジューラのホームページをご覧ください。
http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/

● 作成した画像データを携帯電話で見たい

あらかじめ画像データを個人ホームページに登録しておくと、iモード機能を備えている携帯電話にホームページのアドレスを入力することで、画像データを見ることができます。
BIGLOBEに入会している場合は、BIGLOBEのiモードサービス「らくらくピクチャー・ミニfor iモード」(有料)が利用できます。らくらくピクチャー・ミニ for iモードでは、アルバム形式でホームページに画像を登録できます。

LAN（ローカルエリアネットワーク）

LAN内蔵モデル／2.4GHzワイヤレスLANモデルでは、LANインターフェイスによるネットワーク接続が可能です。
2.4GHzワイヤレスLANを使ってネットワークに接続する場合は「2.4GHzワイヤレスLAN」(→p.76)も合わせてご覧ください。

LANに接続するときの注意

LANに接続してこのパソコンを使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れた場合は、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「再起動」ボタンをクリックしてWindowsを再起動してください。
- 100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ネットワーク通信をする場合には、パソコンにACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ネットワークとの通信中にはスタンバイ状態や休止状態にしないでください。このパソコンが正常に動かなくなることがあります。

LANに接続する

このパソコンのLANインターフェイスでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

100BASE-TXは、従来のEthernet（10BASE-T）の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。このパソコンは、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、このパソコンに接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末としてこのパソコンを接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。
このパソコンのLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX（100Mbps）で使用する場合は、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T（10Mbps）で使用する場合は、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。

・このパソコンを稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。
・ネットワークの設定について詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「LANの設定」をご覧ください。

■ LAN内蔵モデルの場合

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る

2 リンクケーブルの一端を、このパソコンのLAN用モジュラーコネクタ（品）（→p.3、5、6）に、奥までしっかり差し込む

3 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク（100BASE-TXハブなど）に接続する
ネットワーク側の接続や設定については、接続した機器のマニュアルをご覧ください。

■ 2.4GHzワイヤレスLANモデルの場合

「2.4GHzワイヤレスLAN」（→p.76）をご覧ください。

電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定(LAN内蔵モデルのみ)

次の設定を行うと、このパソコンをネットワークに接続して使用している場合、電源回復イベントが発生したときに、パソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。

チェック

- 電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、パソコンのバッテリの消費量が大きくなります。バッテリ駆動時間を優先してパソコンを使いたい場合は、電源設定は行わずに購入時の設定で使用してください。
- 電源回復(スタンバイ状態からの復帰)を使用する場合は、パソコンにACアダプタを接続して使用してください。

1 「デバイス マネージャ」を開く(→p.iv)

2 「ネットワーク アダプタ」の左の[+]をクリックして、表示されたLANアダプタをダブルクリックする

3 「電源の管理」タブをクリックする

4 以下の設定を行う

- 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」が☑になっていることを確認する
- 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の□をクリックして☑にする
- 「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の□をクリックして☑にする

ブロードバンドでインターネットを利用する

「ブロードバンド」とは、もともと広帯域という意味ですが、モデムなどを使ったインターネット接続回線に比べて、高速で通信を行うことができるインターネット接続回線のことを指します。ブロードバンドと呼ばれるインターネット接続には、「ADSL」「CATV」「FTTH」などがあります。これらは、このパソコンのLANインターフェイスを使って接続します。
高速にデータのやりとりが可能なので、データ容量の大きい音楽データや映像データの場合でもストレスなくやりとりできます。

・ブロードバンドのサービスは、すべてのサービスが契約／利用できるとは限りません。サービスによっては地域が限定されているものや、電話回線の状態によってサービスを受けられない場合があります。利用可能かどうかをそれぞれの接続業者に確認してください。

・ブロードバンドで接続する場合、ADSL回線に接続するにはADSLモデム、CATV（ケーブルテレビ）に接続するにはCATVモデムなど、専用のモデムが必要になります。専用のモデムは、契約した接続業者の指定するモデムしか使えなかったり、契約後に接続業者から送られてきたりすることが多いので、契約した接続業者に確認してください。

おもなブロードバンドの種類

● ADSL

ADSLとは、Asymmetric Digital Subscriber Line（非対称デジタル加入者回線）の略で、電話回線を使ってインターネットに高速接続する技術です。家庭にある一般の電話回線（アナログ回線）を使って、インターネットに接続することができます。利用するには、ADSL接続業者やサービスを提供するプロバイダなどとの契約が必要です。

● CATV（ケーブルテレビ）

CATVは、CATV（ケーブルテレビ）のケーブルを使ってインターネットに接続するサービスです。CATV会社がテレビ映像を送信しているケーブルを使ってインターネットに接続します。利用するには、CATVインターネットのサービスを提供しているCATV会社（最寄りのCATV局）との契約が必要です。また、利用する地域にCATVインターネットのサービスを提供しているCATV会社がない場合はサービスを受けることはできません。

● FTTH

FTTHとは、Fiber To The Homeの略で、光ファイバーを使ったインターネット接続回線のことです。現在提供されているインターネット接続サービスの中ではもっとも高速なサービスですが、利用できる地域はまだ限られています。利用するにはFTTHのサービスを行っている業者との契約が必要です。

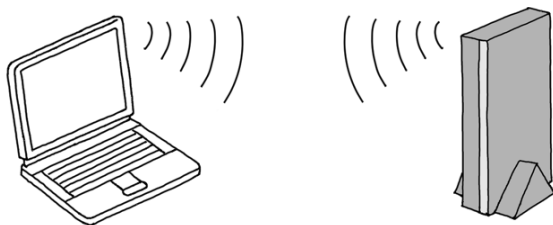
2.4GHzワイヤレスLAN

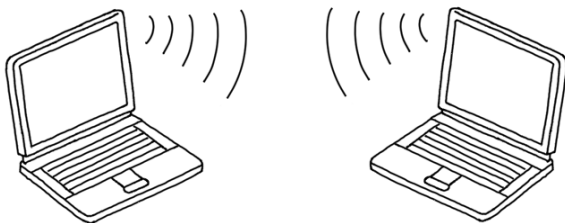
ここでは、2.4GHzワイヤレスLANモデルについての説明をしています。LANに接続する場合は「LAN(ローカルエリアネットワーク)」(→p.72)も合わせてご覧ください。

2.4GHzワイヤレスLAN機能でできること

このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用することで、次のようなことができます。

● **2.4GHzワイヤレスLAN対応周辺機器(親機)とのワイヤレス接続**

このパソコンと2.4GHzワイヤレスLANに対応した別売の周辺機器(親機)を使用すると、ケーブルで接続せずにLANを利用することができます。
たとえば、2.4GHzワイヤレスLANに対応したターミナルアダプタなどを利用してインターネットに接続することができます。

● **他の2.4GHzワイヤレスLAN対応パソコンとのワイヤレス通信**

このパソコンと2.4GHzワイヤレスLANに対応した他のパソコンを使用すると、ケーブル接続やフロッピーディスクなどの媒体を使用せずに、ファイルのコピーなどを行うことができます。

2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用するときの注意

- ワイヤレスLAN機能を使用する際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- 通信速度や通信距離は、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器や電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件によって異なります。
- 電波の性質上、通信距離が離れるにしたがって通信速度が低下する傾向があります。より快適に使用するために、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- 電子レンジを使用中に、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。2.4GHzワイヤレスLAN対応機器と電子レンジは離して使用することをおすすめします。
- 2.4GHzワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器を同時に使用した場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。2.4GHzワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器はいずれかをオフにするか、離して使用することをおすすめします。
- 2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントやレジデンシャルゲートウェイなどが必要です。
- このパソコンに接続できる2.4GHzワイヤレスLAN製品には、レジデンシャルゲートウェイ、無線LANアクセスポイント、ワイヤレスLAN周辺機器などがあります。接続できる製品について、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェアドットコム)」をご覧ください。
  http://121ware.com/

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフ

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフには、以下の方法があります。

【Fn】+【F2】およびBIOSセットアップユーティリティで設定したオン／オフ状態は、電源を切った後も保存されています。

他の機器に影響をあたえる場合や2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用しない場合は、ワイヤレス通信機能をオフにすることをおすすめします。

【Fn】＋【F2】で切り替える

【Fn】を押しながら【F2】を1回押すごとに2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフが切り替わります。

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフの状態はパソコン本体のワイヤレスランプ( ) (→p.10)で確認することができます。

BIOSセットアップユーティリティで切り替える

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフはBIOSセットアップユーティリティでも設定できます。
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフの状態はパソコン本体のワイヤレスランプ（•⁘）(→p.10)で確認することができます。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する(→p.112)

2 「詳細」メニューの「ワイヤレスデバイス」を「使用する」または「使用しない」に設定する

3 【F10】を押す
「セットアップ確認」のメッセージが表示されます。

4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
Windowsが再起動します。

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで切り替える

チェック
この方法で切り替えた場合、2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフはワイヤレスランプで確認することができません。

■ オフにする場合
「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで「無効にする」ボタンをクリックする

■ オンにする場合

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリックする
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。

2 「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンをダブルクリックする

2.4GHzワイヤレスLANの設定を行う

2.4GHzワイヤレスLANへの接続のしかたや設定について詳しくは、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ワイヤレスLANの設定」をご覧ください。

PART

3

周辺機器を使う

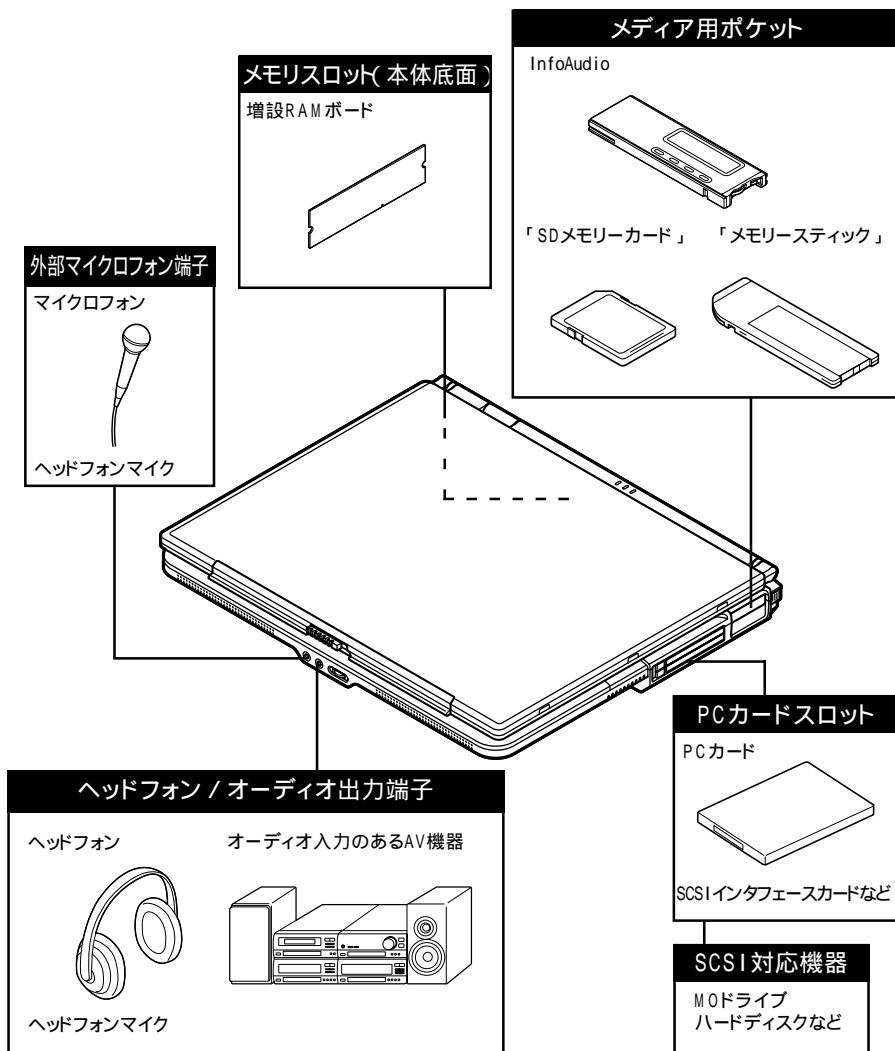
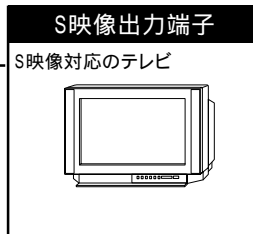
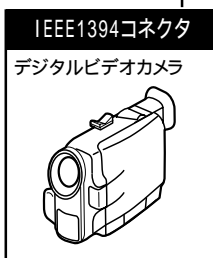
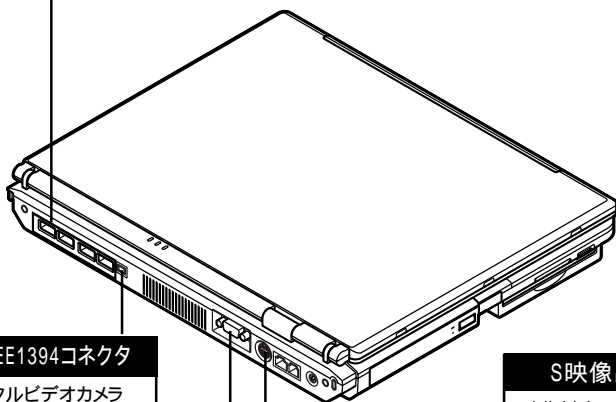
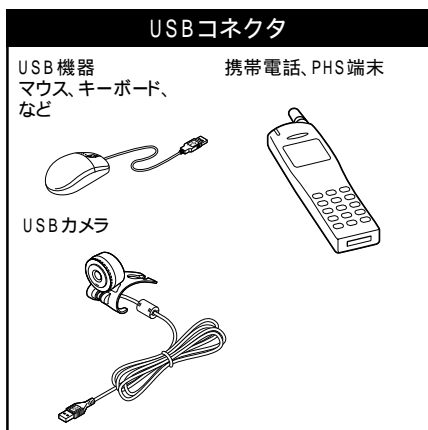
プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。ここでは、別売の周辺機器の接続方法や使用する場合の注意事項などを説明しています。

このパソコンに接続できる周辺機器

LaVie C

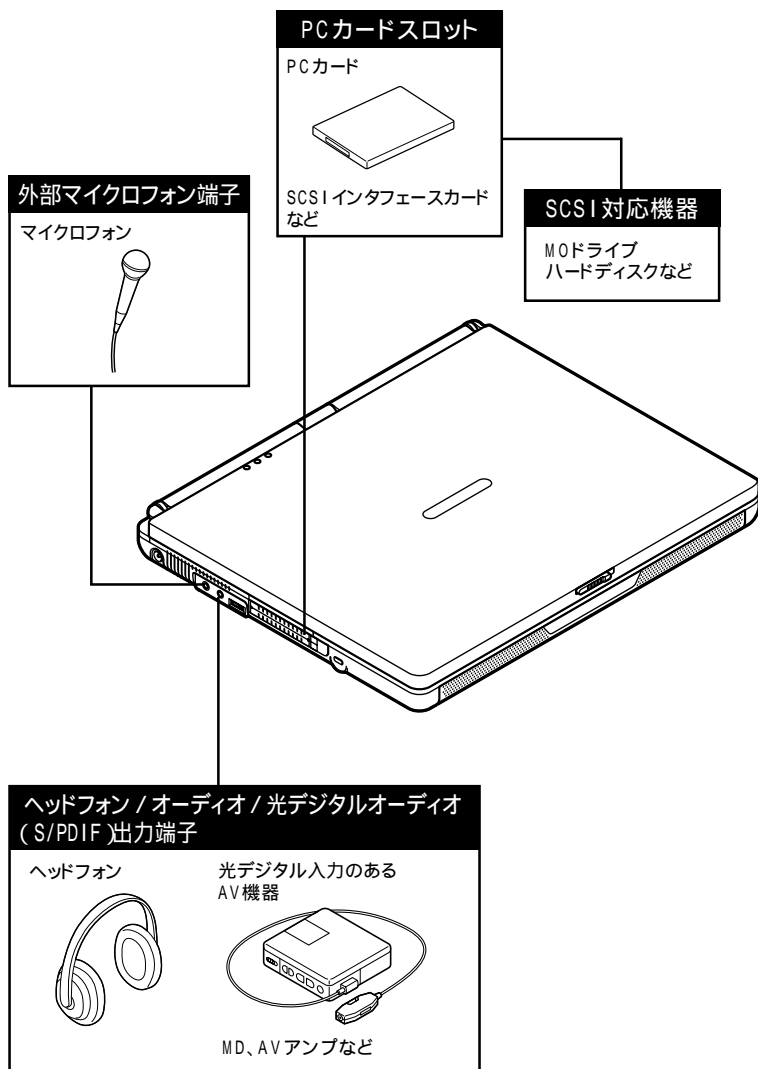
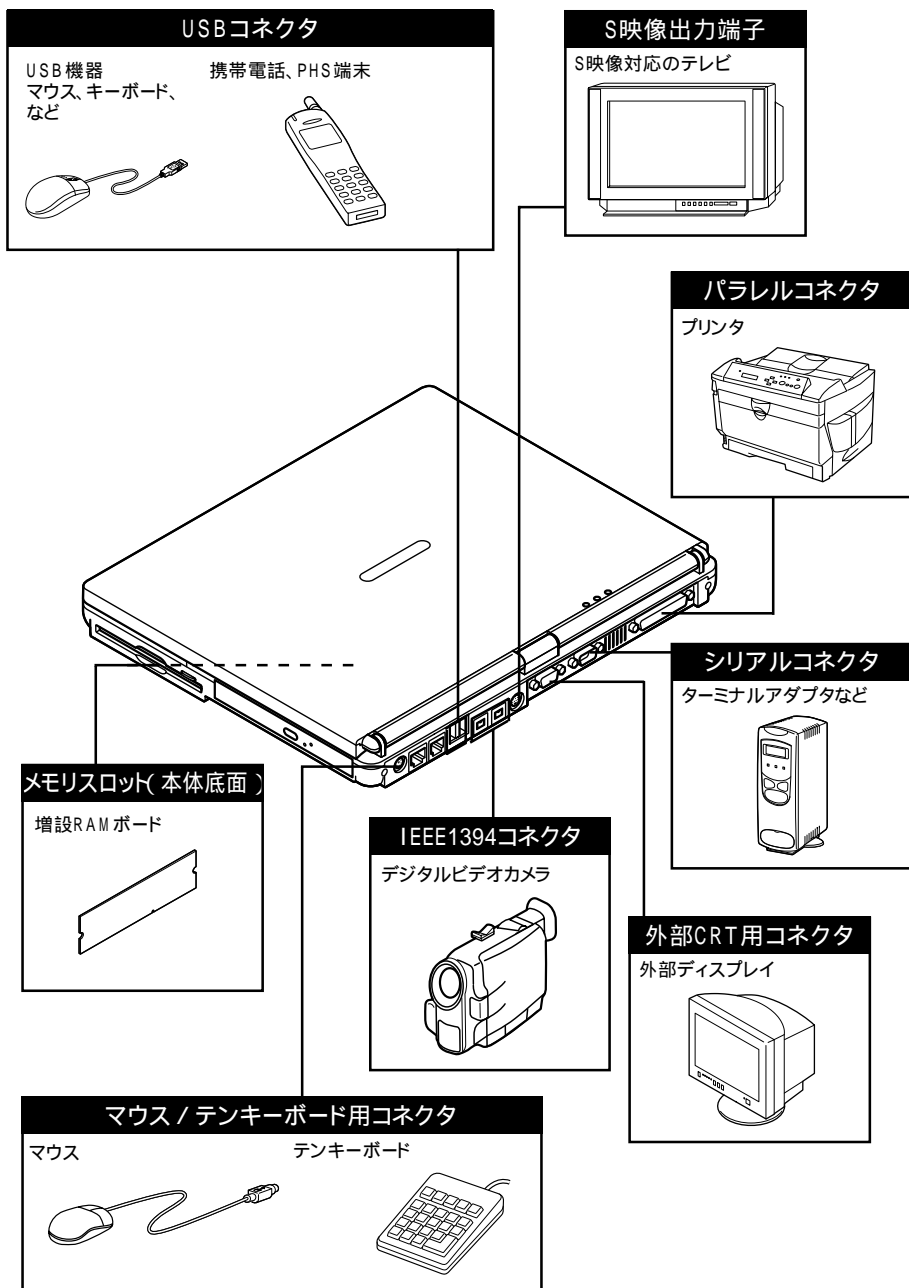
■ 本体左側面

■ 本体背面／右側面／底面

USBコネクタ
USB機器
マウス、キーボード、
など
携帯電話、PHS端末
USBカメラ
IEEE1394コネクタ
デジタルビデオカメラ
外部CRT用コネクタ
外部ディスプレイ
S映像出力端子
S映像対応のテレビ

LaVie L(15型モデル)

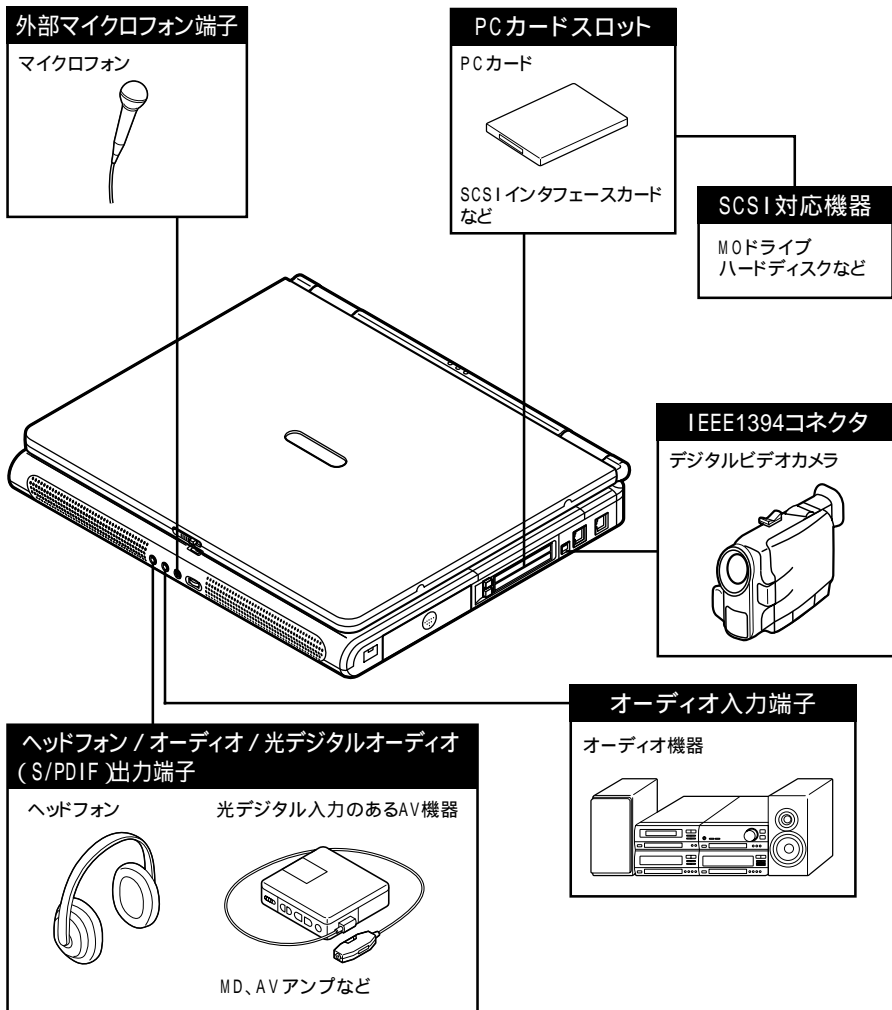
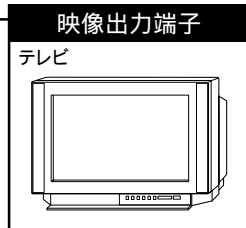
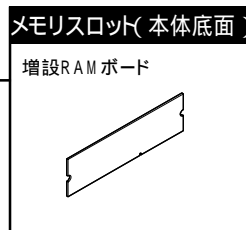
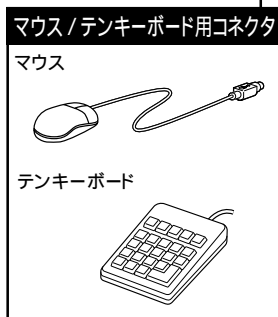
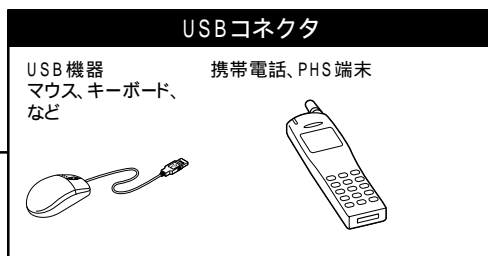
■ 本体左側面

■ 本体背面／底面

USBコネクタ
USB機器
マウス、キーボード、
など
携帯電話、PHS端末
S映像出力端子
S映像対応のテレビ
パラレルコネクタ
プリンタ
シリアルコネクタ
ターミナルアダプタなど
メモリスロット（本体底面）
増設RAMボード
IEEE1394コネクタ
デジタルビデオカメラ
外部CRT用コネクタ
外部ディスプレイ
マウス／テンキーボード用コネクタ
マウス
テンキーボード

LaVie L(14型モデル)

■ 本体前面/左側面

■ 本体背面／底面

USBコネクタ
USB機器
マウス、キーボード、
など
携帯電話、PHS端末
シリアルコネクタ
ターミナルアダプタなど
マウス／テンキーボード用コネクタ
マウス
テンキーボード
メモリスロット（本体底面）
増設RAMボード
映像出力端子
テレビ
パラレルコネクタ
プリンタ
外部CRT用コネクタ
外部ディスプレイ

周辺機器を接続する前に

周辺機器を利用するときの注意

周辺機器の取り付け／取り外し時の注意

- 周辺機器の取り付け／取り外しをする際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- スタンバイ状態または休止状態の場合は、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
  スタンバイ状態または休止状態の場合は、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- 別売の周辺機器を取り付ける場合は、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。
- 周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- 周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、『困ったときのQ&A』PART2の「周辺機器」をご覧になり、リソースが競合しないように変更してください。

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ＆プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

● 「プラグ＆プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。

このパソコンにインストールされているWindowsには、プラグ＆プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ＆プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

● 「プラグ＆プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE1394対応機器、PCカードなどは、パソコンの電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。
ただし、画面右下の通知領域にが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする

「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウが表示されます。
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。

2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」ボタンをクリックする

周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」ボタンをクリックする

画面右下の通知領域に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 **「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウを閉じる**

これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待てば使用できます。

プリンタ

プリンタを使う準備

プリンタを接続するには、別売のケーブルが必要です。お使いのプリンタに合わせてケーブルを用意してください。プリンタにはUSBコネクタに接続する機種やパラレルコネクタに接続する機種があります。
プリンタによっては、接続するだけですぐ使えるものもあります。

プリンタを接続する

接続するプリンタに合わせて、USBコネクタ（ ）またはパラレルコネクタ（ ）にプリンタを接続し、プリンタ用のドライバや必要なアプリケーションをインストールします。接続が完了したら、正しく接続できたかテスト印刷をして確認してください。プリンタの接続については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

プリンタを設定する

プリンタを接続しても何も表示されない場合は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」→「プリンタとFAX」でプリンタのアイコンが表示されているか確認してください。接続したプリンタのアイコンが表示されている場合は、すぐにプリンタを使うことができます。プリンタの設定について詳しくは、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

■ 複数のプリンタを使う

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」→「プリンタとFAX」で行います。たとえば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。
詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。

チェック

NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の「電源設定」タブで「システム　スタンバイ」を「なし」に設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

マウス

マウスを使用する

このパソコンでは、添付のマウス(マウス添付のモデルを購入した場合)、または別売のUSBマウスを使用することができます。LaVie Lをお使いの場合は別売のUSBマウスのほかにも、別売のシリアルマウスやPS/2互換マウスを使用することもできます。
別売のマウスを使用する場合はマウスドライバの設定が必要です。マウスを使用する設定を行ったあとにNXパッドを使用する場合は、NXパッドを使用する設定に戻す手順が必要です。

参照

別売のマウスを使用する、NXパッドを使用する設定に戻す→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「マウスの設定」

マウスを設定するときの注意

マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合でもキーボードによる操作は可能ですので次の手順でWindowsを再起動してください。

● キーボードを使って再起動する

1 【 】を押す

2 カーソル移動キーで「終了オプション」を選択し、【Enter】を押す

3 カーソル移動キーで「再起動」ボタンを選択し、【Enter】を押す

外部ディスプレイ

CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

チェック

使用するCRTディスプレイによっては、表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用する場合は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

■ LaVie Cの場合

表示解像度（ドット）	水平走査周波数（KHz）	垂直走査周波数（Hz）	表示色	
			65,536色	1,677万色
800×600	37.9	60	○	○
	46.9	75	○	○
	53.7	85	○	○
1,024×768	48.4	60	○	○
	60.0	75	○	○
	68.7	85	○	○
1,280×1,024	64.0	60	○	○
	80.0	75	○	○
	91.1	85	○	○
1,600×1,200	75.0	60	○	○

○：表示可能

■ LaVie Lの場合

表示解像度（ドット）	水平走査周波数（KHz）	垂直走査周波数（Hz）	表示色	
			65,536色	1,677万色
800×600	37.9	60	○	○
	46.9	75	○	○
	53.7	85	○	○
1,024×768	48.4	60	○	○
	60.0	75	○	○
	68.7	85	○	○
1,280×1,024	64.0	60	○	○※
	80.0	75	○	○※
	91.1	85	○	○※
1,600×1,200	75.0	60	○	−
	93.8	75	○	−

○：表示可能
−：表示不可
※：高（24ビット）のみ表示可能

CRTディスプレイを接続する

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る

2 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタ（▭）（→p.3、5、7）に差し込み、ネジを回して固定する

3 CRTディスプレイの電源ケーブルを、電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

プロジェクタを使う

このパソコンの外部CRT用コネクタ（▭）（→p.3、5、7）には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。
別売のプロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

プロジェクタとの接続のしかた→プロジェクタのマニュアル

テレビを使う

パソコンにテレビを接続すると、パソコンの画面やDVD VIDEOディスクの再生画面をテレビに出力することができます。

■ LaVie C、LaVie L(15型モデル)の場合

S映像入力端子付きのテレビとパソコンを接続することができます。
「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切ってから、パソコンのS映像出力端子(Ⓢ)に市販のビデオケーブルを接続してテレビを接続してください。

参照

S映像出力端子→PART1の「本体の各部の名称」(p.3、5)

■ LaVie L(14型モデル)の場合

ビデオ入力端子付きのテレビとパソコンを接続することができます。
「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切ってから、パソコンの映像出力端子(▢)に市販のビデオケーブルを接続してテレビを接続してください。

参照

映像出力端子→PART1の「本体の各部の名称」(p.7)

表示するディスプレイを切り替える

別売のCRTディスプレイやテレビなどが接続されている場合は、次のいずれかの方法で画面の出力先を切り替えることができます。

● コントロールパネルで切り替える

コントロールパネルで画面の出力先を切り替えることができます。

参照

画面の出力先の切り替えかたについて→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」

● キーボードを使って切り替える

【Fn】を押したまま【F3】を押すと、キーを押すごとに画面の出力先が切り替わります(→p.14)。

メモ

複数のディスプレイに表示しているときにこの操作を行うと、設定が解除されます。

- ビデオCDやDVD VIDEOディスクの動画再生中は、画面の切り替えを行わないでください。
- 外部ディスプレイ接続時は、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイ状態や休止状態にできません。
- ビデオ再生時は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

複数のディスプレイに同時表示する

デュアルディスプレイ機能の実行中や、画面をパソコンの液晶ディスプレイとテレビに同時表示しながらビデオCDやDVD VIDEOディスクを再生する場合、再生画面は、「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

● 同じ画面を2つのディスプレイに表示する

パソコンの液晶ディスプレイと接続した外部ディスプレイの両方に同じ画面を表示することができます。

参照
同じ画面を2つのディスプレイに同時表示する→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」

● デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ(Dual Display)機能は、外部ディスプレイを接続した場合に、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使って、ひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広くなります。

参照
デュアルディスプレイ機能を使う→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「画面の設定」

外部ディスプレイを接続するときの注意

外部ディスプレイを接続したときに、画面に何も表示されなくなってしまう場合があります。その場合は、『困ったときのQ&A』PART2の「ディスプレイ」をご覧になり、設定を行ってください。

PCカード

PCカードを使用するときの注意

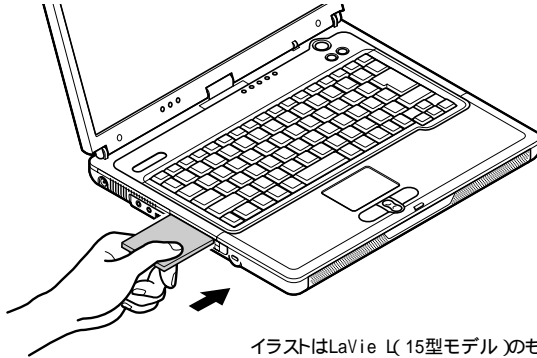
- PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
  - 高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
  - 濡らさない
  - 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしない
  - ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えない
  - PCカードの端子部分に金属などを差し込まない
- PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

PCカードのセットのしかたと取り出しかた

PCカードをセットする／取り出すときの注意

- PCカードをセットする／取り出す際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- スタンバイ状態または休止状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードをセットする

PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、PCカードスロット(→p.2、5、6)に水平に静かに差し込んでください。

イラストはLaVie L(15型モデル)のものです。

メモ

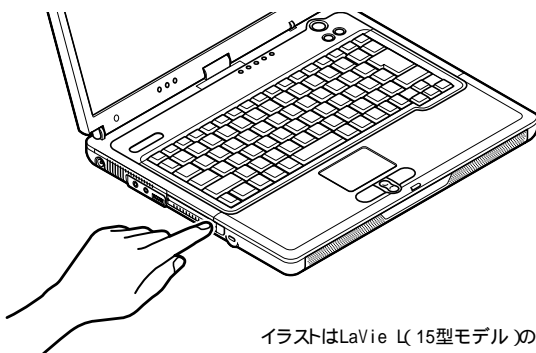
PCカードスロットにPCカードをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。
このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の☒をクリックしてください。

PCカードを取り出す

PCカードを取り出す場合は、必ず次の手順で取り出してください。

1 「周辺機器の取り外しと再接続」(→p.87)の手順1〜4を行う

2 **本体のPCカードイジェクトボタン(→p.2、5、6)を押す**

イジェクトボタンが手前に飛び出します。

イラストはLaVie L(15型モデル)のものです。

3 **もう一度、イジェクトボタンをカチッと音がするまで押す**

PCカードが少し飛び出します。

4 **PCカードを水平に静かに引き抜く**

PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART5の「割り込みレベルとDMAチャネル」(→p.144)やPCカードのマニュアルをご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

参照

割り込みレベルの設定を変更する→『困ったときのQ&A』PART2の「周辺機器」

メモリ

メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

■ LaVie Cの場合

型名	メモリ容量
PK-UG-M035	128Mバイト
PK-UG-M036	256Mバイト
PK-UG-M037	512Mバイト

■ LaVie Lの場合

型名	メモリ容量
PK-UG-M025	128Mバイト
PK-UG-M026	256Mバイト
PK-MM133SD512	512Mバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

- 増設RAMボードの取り付け／取り外しを行う際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

増設RAMボードを取り付ける

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す

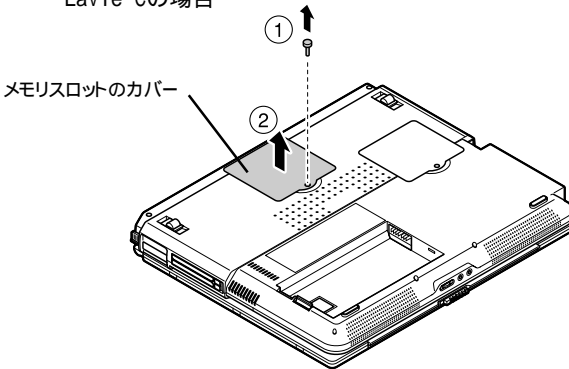
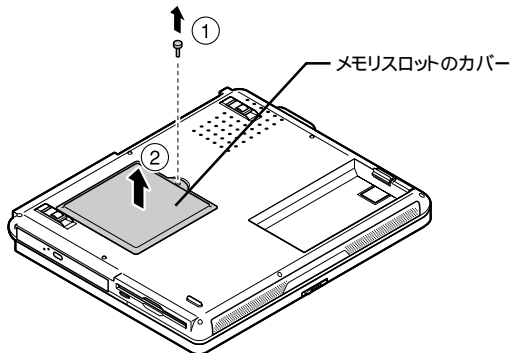
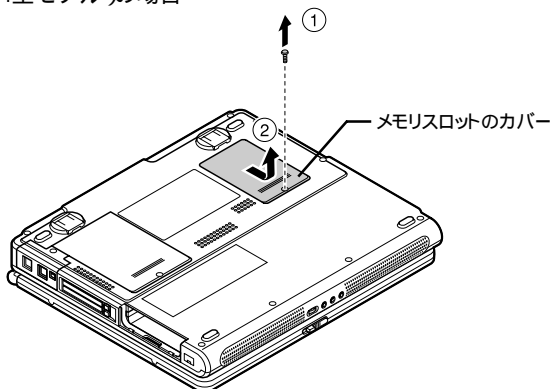
3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

4 バッテリパックを取り外す(→p.39、41)

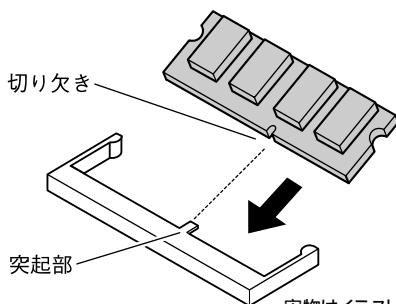
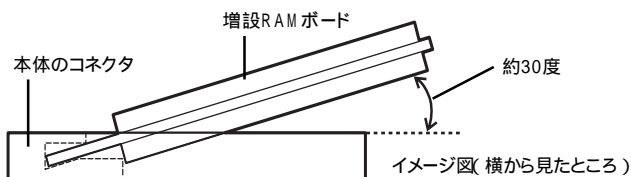
5 図のネジをプラスドライバで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す

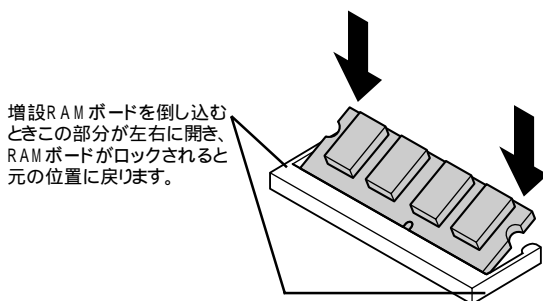
・LaVie Cの場合

・LaVie L(15型モデル)の場合

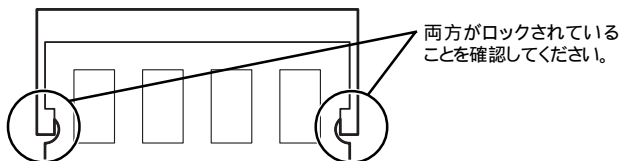
3 周辺機器を使う

・LaVie L(14型モデル)の場合

6 増設RAMボードの切り欠き部分をコネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

増設RAMボードが奥まで挿入できている場合は、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。

挿入するときに、コネクタが固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む

8 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。

9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

10 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」をクリックする

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「全般」タブで右下に表示されている「××× MB RAM」の数値を確認する

×××MBがこのパソコンの総メモリ容量です。

システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

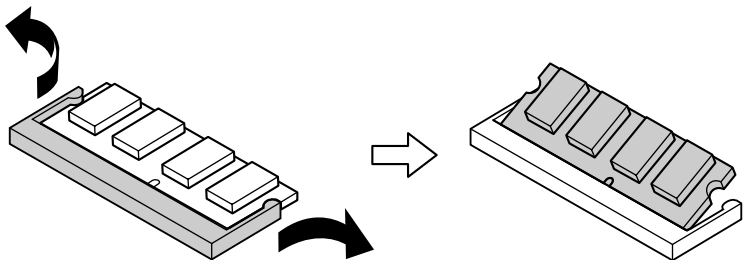
メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- このパソコンで使用できる増設RAMボードを取り付けているか

増設RAMボードを取り外す

1 「増設RAMボードを取り付ける」(→p.99)の手順1〜5にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す

2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードが図のように起き上がります。

3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く

4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

5 バッテリパックを取り付ける

IEEE1394対応機器

IEEE1394コネクタについて

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE（米国電気電子技術者協会）で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が速いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。
IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

接続する前に

・接続できる周辺機器は、IEEE1394コネクタでの入出力に対応している機器です。接続する機器にIEEE1394コネクタが搭載されているかを確認してください。IEEE1394コネクタは、DV端子などの別名で呼ばれていることもあります。詳しくは、販売店などで確認してください。
・このパソコンと、IEEE1394コネクタを搭載している周辺機器を接続する場合は、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは4ピンです。ケーブルを購入する際は、接続する機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。

IEEE1394対応機器の接続のしかたと取り外しかた

IEEE1394コネクタに機器を接続する

1 パソコンのIEEE1394コネクタ（→p.3、5、6）にIEEE1394ケーブルのプラグを接続する
IEEE1394コネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。

チェック
接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、コネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

2 **ケーブルのもう一方のプラグを周辺機器に接続する**

周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

IEEE1394コネクタにIEEE1394対応機器を接続すると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用する周辺機器によって異なります)。
このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の☒をクリックしてください。

IEEE1394コネクタから機器を取り外す

IEEE1394対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域にが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行います。正しく取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがありますので、「周辺機器の取り外しと再接続」(→p.87)をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

IEEE1394コネクタで取り込んだ映像を再生/編集する

IEEE1394コネクタを使って外部デジタルビデオ機器からパソコンに取り込んだ映像を、再生したり編集することができます。また、パソコンから外部デジタルビデオ機器に出力することもできます。

お客様が録画、録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、著作権者に無断で使用できません。

- 映像を取り込む、編集する→VideoStudioのオンラインヘルプ、またはの「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「VideoStudio」
- 映像を再生する→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「Jet-Audio Player」、または「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」
- 映像をダビングする→「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「SmartGallery」→「BusBrain 1.2 ヘルプ」

IEEE1394コネクタでファイルを転送する

このパソコンのIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。

チェック

IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

接続にはネットワークの設定が必要です。
ネットワークの設定をするには、「ネットワーク セットアップ ウィザード」を使います。「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク セットアップ ウィザード」をクリックして設定を行ってください。

USB対応機器

USBコネクタについて

USBとは

USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ＆プレイ機能にも対応しています。
接続できるおもなUSB対応機器として、マウス、プリンタ、デジタルカメラなどがあります。

- USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。
- USB対応機器の、このパソコンでの動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com（ワントゥワンウェア ドット コム）」をご覧ください。

  http://121ware.com/

- 携帯電話やPHS端末を接続するには、携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルが必要です。

接続する前に

- 機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合があります。接続するUSB対応機器のマニュアルを読んで、接続する前に設定が必要な場合は設定を行ってください。また、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。
- USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。
- 接続してすぐ使うことができるUSB対応機器もありますが、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

USB対応機器を接続するときの注意

- USB対応機器の抜き差しを行う場合は、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。
- スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。
- USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブをパソコンに接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブをパソコンに接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

USB2.0を利用する(LaVie Cのみ)

このパソコンのUSBコネクタはUSB2.0に対応しています。USB2.0に対応している周辺機器を取り付けることで、USB2.0の転送速度を利用することができます。USB2.0に対応している周辺機器には、外付けのハードディスクやCD-R/RWドライブなどがあります。

USB2.0を利用する場合の注意

USB2.0の転送速度を出すにはUSB2.0対応の機器を接続する必要があります。また、USB2.0の機器をUSB1.1規格のハブで利用した場合はUSB1.1の転送速度に制限されます。

USB対応機器の接続のしかたと取り外しかた

USB対応機器を接続する

1 パソコンのUSBコネクタ(•⟷)(→p.3、5、7)にプラグを差し込む

USBコネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。

2 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する

確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域に が表示されます。このような機器の取り外しは、 をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行います。正しく取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがありますので、「周辺機器の取り外しと再接続」(→p.87)をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

ヘッドフォン／オーディオ機器

ヘッドフォンやオーディオ機器の接続のしかた

LaVie Lをお使いの場合、ヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子(/)(→p.5、6)に、デジタル入力を持ったオーディオ機器やヘッドフォンを接続することができます。
デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。
LaVie Cをお使いの場合、ヘッドフォン／オーディオ出力端子( )(→p.3)に、オーディオ入力端子を持ったオーディオ機器やヘッドフォンを接続することができます。

チェック

- 機器によっては、デジタル入力端子が光デジタルではない場合があります。このような場合、別途、変換ユニットが必要になる場合があります。
- このパソコンの光デジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

メモ

ヘッドフォン／オーディオ／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子には、通常のヘッドフォンやオーディオ機器も接続することができます。

DolbyHeadphone機能を使う(LaVie Cのみ)

このパソコンには、DolbyHeadphone機能が搭載されています。このパソコンのヘッドフォン／オーディオ出力端子に市販のヘッドフォンを接続すると、DVD VIDEOディスクの臨場感のあるデジタルサウンドを楽しむことができます。

参照

Jet-Audio Playerの使いかた→「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「Jet-Audio Player」、または「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」

その他の機器

その他の機器を取り付ける

シリアルコネクタ（LaVie Lのみ）

シリアルコネクタ（[IOIOI]）（→p.5、7）には、シリアルインターフェイスの機器を接続することができます。シリアルインターフェイスの機器を接続できるコネクタのことを一般的にはシリアルポートと呼びます。シリアルポートには、ターミナルアダプタなどを接続することができます。
シリアルポートは、Windows上ではCOM1やCOM2などと表示されます。

パラレルコネクタ（LaVie Lのみ）

パラレルコネクタ（[プリンタ]）（→p.5、7）には、パラレルインターフェイスの機器を接続することができます。パラレルインターフェイスの機器を接続できるコネクタのことを一般的にはパラレルポートと呼びます。パラレルポートには、プリンタなどを接続することができます。
パラレルポートは、WindowsではLPT1などと表示されます。

マウス／テンキーボード用コネクタ（LaVie Lのみ）

マウス／テンキーボード用コネクタ（[マウス]/[キーボード]）（→p.5、7）には、PS/2タイプのマウスやテンキーボードなどを取り付けることができます。PS/2タイプのマウスとテンキーボードを同時に接続したい場合は、別売のYケーブル、またはマウスに添付のYアダプタを使用してください。

機器を取り付け／取り外しするときの注意

- 機器を取り付け／取り外しする際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
- このパソコンのシリアルコネクタ、パラレルコネクタ、マウス／テンキーボード用コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、本機の電源を切ってから取り付けてください。また、使用するときは、周辺機器の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。

PART

4

BIOSセットアップユーティリティ

BIOSセットアップユーティリティでは、ハードウェア環境の確認や変更、パソコンのセキュリティの設定などを行うことができます。設定方法を間違えると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップユーティリティ

BIOSセットアップユーティリティの設定を行う

BIOSセットアップユーティリティの起動

1 パソコンの電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を1秒おきに数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

BIOSセットアップユーティリティが表示されないときは、LaVie Cをお使いの場合は【F2】を押す間隔を変えてください。LaVie Lをお使いの場合は、いったん電源を切り、【F2】を押しながら電源を入れなおしてください。

BIOSセットアップユーティリティの基本操作

操作はキーボードで行います。

■ 設定を変更する

・【←】【→】でメニューを選び、【↑】【↓】で設定項目を選びます。
・設定内容の値は【F5】【F6】で変更します。

■ 設定の変更を取り消す

「終了」メニューの「変更を取り消す」を選びます。すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。

■ 設定の変更を保存する

「終了」メニューの「変更を保存する」を選びます。変更値が保存されます。

■ バッテリリフレッシュを行う

バッテリリフレッシュはバッテリの機能を回復させるための機能です。バッテリリフレッシュの詳しい手順については、PART1の「バッテリ」の「バッテリリフレッシュ」(→p.35)をご覧ください。

BIOSセットアップユーティリティの終了

■ 変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

「終了」メニューの「変更を保存して終了する」を選んでも、変更値を保存して終了することができます。

■ 変更を保存せずに終了する

「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選びます。設定値を保存せずにBIOSセットアップユーティリティを終了します。設定の変更を行った場合もすべて無効になります。

購入時の値に戻す

1 キーボードの【F9】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

デフォルト値を読み込みます。

3 キーボードの【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。

4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定の変更を保存して終了します。

「終了」メニューの「デフォルト値をロードする」を選んで購入時の値に戻すこともできます。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップユーティリティでどのような設定ができるかを説明しています。
表中の反転部分は、購入時の設定です。

「メイン」メニューの設定

チェック

内蔵HDDの設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目		設定値	説　明
システム時刻（時：分：秒）		ー	現在の時刻を「時：分：秒」（24時間形式）で設定します。
システム日付（年／月／日）		ー	日付を「年／月／日」（西暦）で設定します。「言語」を「英語」に設定している場合は、「月／日／年」で入力します。
言語		English(US) **日本語(JP)**	BIOSセットアップユーティリティで使用する言語を設定します。標準では「日本語(JP)」に設定されています。
フロッピィディスクAまたはフロッピィディスク		使用しない **1.44/1.25Mb 3.5"**	フロッピーディスクドライブのモードを選びます。「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブは使用できません。「1.44：1.25Mb 3.5"」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できます。
内蔵HDD／内蔵CD/DVD		ー	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。表示できるのは「内蔵HDD」の項目のみです。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
	タイプ	**自動** ユーザ CD/DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
	32ビットI/O	**使用しない** 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
システムメモリ		ー	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ		ー	搭載されている拡張メモリを表示します。

設定項目	設定値	説　明
CPUタイプ	―	CPUタイプを表示します。
CPU速度	―	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン	―	BIOSのバージョンを表示します。

「詳細」メニューの設定

■ LaVie Cの場合

設定項目	設定値	説　明
NXパッド	**使用する** 使用しない	USBマウス接続時のNXパッドの動作について設定します。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ **オン**	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
セットアップ移行画面表示	非表示※1 **表示**	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
セットアップ情報画面	**使用しない** 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 **ロゴ画面** 非表示※1	ブート時の画面を設定します。
ワイヤレスデバイス※2	**使用しない** 使用する	2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン／オフ（電波を出す／出さない）を切り替えます。
Intel(R)SpeedStep(TM)テクノロジ※3	使用しない **使用する**	「使用する」を選択すると、Intel®SpeedStep™テクノロジがOSやAppletにより制御され、システムは最適化された性能で動作します。「使用しない」を選択すると、常にバッテリ最適化性能で動作します。

※1：BIOSセットアップユーティリティを起動する場合は、電源を入れたあと、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください

※2：2.4GHzワイヤレスLANモデルのみ。Windows起動時は、【Fn】＋【F2】で設定値を変更することができます

※3：拡張版　インテル®SpeedStep™テクノロジを搭載しているモデルのみ

■ LaVie Lの場合

設定項目	設定値	説　明
NXパッド&PS/2マウス	使用しない **自動**	「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときにNXパッドが使用できなくなります。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ **オン**	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
ビデオ出力方式※1	**NTSC** PAL	使用する国、地域でのビデオ出力方式を設定します(日本、アメリカでは「NTSC」、ヨーロッパでは「PAL」)。
グラフィックアパーチャ※1	4Mb/8Mb/16Mb/32Mb/64Mb/128Mb/**256Mb**	AGPビデオデバイスが使用するグラフィックアパーチャーのサイズを設定します。
セットアップ移行画面表示	非表示※2 **表示**	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
セットアップ情報画面	**使用しない** 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 **ロゴ画面** 非表示※2	ブート時の画面を設定します。
Intel(R)SpeedStep(TM)テクノロジ※3	使用しない **使用する**	「使用する」を選択すると、Intel®SpeedStep™テクノロジがOSやAppletにより制御され、システムは最適化された性能で動作します。「使用しない」を選択すると、常にバッテリ最適化性能で動作します。

※1:LaVie L(14型モデル)のみ
※2:BIOSセットアップユーティリティを起動する場合は、電源を入れたあと、1秒おきに【F2】を押すことを何度度かくりかえしてください
※3:インテル® SpeedStep™テクノロジを搭載しているモデルのみ

次の「周辺機器設定」の項目はLaVie Lのみ表示されます。

設定項目	設定値	説明
周辺機器設定	―	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと以下の設定を行うことができます。
シリアルポートA	使用しない **使用する** 自動	「使用しない」に設定すると、シリアルポートは使用できません。「使用する」に設定すると、ユーザがI/Oベースアドレスを設定できます。「自動」に設定すると、BIOSがI/Oベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
I/Oベースアドレス	**3F8** 2F8 3E8 2E8	「シリアルポートA」を「使用する」に設定すると表示されます。シリアルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
パラレルポート	使用しない **使用する** 自動	「使用しない」に設定すると、パラレルポートは使用できません。「使用する」に設定すると、ユーザがパラレルポートの「モード」「I/Oベースアドレス」「DMAチャネル」を設定できます。「自動」に設定すると、BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。
モード	**双方向** ECP EPP	パラレルポートのモードを設定します。
I/Oベースアドレス	**378** 278 3BC	パラレルポートを「使用する」に設定すると表示されます。パラレルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない **使用する** 自動	設定は変更しないで「使用する」のまま使用してください。

「セキュリティ」メニューの設定

● **スーパバイザパスワード設定**

スーパバイザパスワードの設定または変更を行います。
【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照

パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.49)

● **ユーザパスワード設定**

ユーザパスワードの設定または変更を行います。
スーパバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。
【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照

パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.49)

設定項目	設定値	説　明
起動時のパスワード※	**使用しない** 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	**通常動作** 書込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。

※：スーパバイザパスワードを設定していないと「起動時のパスワード」は設定できません。

「起動」メニューの設定

■ Networkブート(LAN内蔵モデルのみ)

ネットワークからの起動が必要な場合、「使用する」に設定します。
通常は「使用しない」で使用してください。

■ 起動順位

起動するデバイスが優先順にしたがってリスト表示されます。
パソコンを起動するときには、表示順にOSを検索し、もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は、次に表示されているデバイスからパソコンを起動します。

● 起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に＋の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【Enter】を押すと展開表示されます。
起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【~ へ】のキーと【Shift】を同時に押すとリストの上側に移動し、【= ー ほ】を押すとリストの下側に移動します。
なお、ニューメリックロックキーランプ(1)が点灯しているときには前面に【＋】【－】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

PART

5

付録

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

マルチユーザー機能

マルチユーザー機能とは

1台のパソコンに複数のユーザーを登録し、ユーザーごとに使用環境を切り替えて使うことができる機能です。1台のパソコンでもログオンするユーザーが異なれば、基本的にはそのユーザーに合わせてWindowsの設定やデータ保存用フォルダが自動的に切り替わるので、複数のユーザーで1台のパソコンを共用したい場合などに便利な機能です。

マルチユーザー機能の使いかた

ログオン

パソコンの起動時にユーザー名を選択したりパスワードを入力する操作です。これにより、使用するユーザーをパソコンが判別し、そのユーザーの使用環境で起動します。

ログオフとユーザー切り替え

ログオフおよびユーザー切り替えの操作は、「スタート」ボタン→「ログオフ」をクリックすると表示される「Windowsのログオフ」ウィンドウで行います。

● ログオフ

あるユーザーがこのパソコンの利用を終了するための操作です。使用中のアプリケーションなどはすべて終了されますが、パソコンの電源は入ったままの状態です。ログオフした画面上でユーザーを選択すると、選択したユーザーの使用環境でログオンできます。

● ユーザーの切り替え

ユーザーの切り替えは、あるユーザーがこのパソコンを使用中に、別のユーザーがこのパソコンを使用したくなったときに行います。前のユーザーが使用していたアプリケーションを終了せずにユーザーを切り替えるので、前のユーザーがまたこのパソコンを使いたくなったときにユーザーの切り替えを行うことで、すぐに続きの作業をはじめられます。

ユーザーを切り替えるときの注意

- あるユーザーがアプリケーションを使用中に、ユーザーを切り替えて別のユーザーが同じアプリケーションを起動すると、正常に動作しないことがあります。このような場合は、ユーザーを切り替える前にアプリケーションを終了してください。
- パソコンの使用中にユーザーの切り替えを行うときは、他のユーザーがデータの編集中でないか確認してください。データの編集中にユーザーの切り替えをして、別のユーザーがWindowsを終了しようとすると、編集中のデータがある旨のメッセージが表示されます。そこでWindowsを終了すると、他のユーザーが編集中のデータは失われます。

マルチユーザーの設定をする

ユーザーを追加する

ユーザーを追加するときは、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンして設定を行ってください。制限付きアカウントとしてのユーザーでログオンした場合、アプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「ユーザーアカウント」をクリックする

2 「新しいアカウントを作成する」をクリックする

3 アカウント名を入力し、「次へ」ボタンをクリックする

4 アカウントの種類で、「コンピュータの管理者」が選択されていることを確認して「アカウントの作成」ボタンをクリックする
これで新しいユーザーを追加することができました。

ユーザーを追加すると、Windowsの起動時や省電力状態からの復帰時にログオンするユーザーを選択する画面が表示されるようになります。

ユーザーの設定をする

作成したユーザーの名前や画像を変更したり、パスワードを設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「ユーザーアカウント」をクリックする

2 設定したいユーザーアカウント名をクリックする

3 設定したい内容をクリックして設定を行う

マイコンピュータなどで自分が保存したデータを直接見るときは、Cドライブの「Documents and Settings」フォルダを開きます。基本的に、各ユーザーのフォルダはアカウント名と同じ名前で作成されますが、あとでアカウント名を変更してもフォルダ名は変更されません。アカウント名を変更した場合、変更前にバックアップ-NXでバックアップしたデータは、正しく復元できなくなることがありますので、アカウント名を変更するときは注意してください。

マルチユーザー機能を使用するときの注意

マルチユーザー機能を使用するときは、次のようなことを注意してください。

- 「バックアップ-NX」でバックアップするときは、ログオンしたときのユーザー名でのデータをバックアップします。複数ユーザーを登録したパソコンで、すべてのユーザーのデータをバックアップするには、ユーザーの数だけログオンしなおして、データをバックアップしてください。
- 「バックアップ-NX」でデータを復元するときも、ログオンしたときのユーザー名でのデータを復元します。すべてのユーザーのデータを復元するときは、ユーザーの数だけログオンしなおして、データの復元を行ってください。なお、バックアップしたときと復元するときとでユーザー名が異なると、うまく復元できないことがあります。
- パソコンの再セットアップを行うときには、ユーザー名を入力します。その際は、再セットアップ前のユーザー名と同じユーザー名を入力してください。一文字でも違っていると、別のユーザー名と認識され、「バックアップ-NX」を使ってのデータの復元ができないものがあります。
- 一部のアプリケーションでは、マルチユーザー環境であっても、アプリケーションデータはパソコン共通のデータ(パソコンで1つ、個々のユーザーごとには作成されない)となることがあります。たとえば、アイモーニングのスケジュールなどは、ユーザー固有のものではなく、そのパソコンを使用しているユーザーすべてに共通のものとなります(自分が書き込んだスケジュールを、他のユーザーがログオンしたときにも見られます)。
- 使用するアプリケーションによっては、Windowsログオン時のパスワードが設定されていないと、一部の機能が使用できない場合があります。詳しくは、使用するアプリケーションのマニュアルやヘルプをご覧ください。

本体機能一覧

LC950／LC900

型名		LC950/3E	LC900/3E
型番		PC-LC9503E	PC-LC9003E
CPU		モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 1.8GHz (拡張版インテル®SpeedStep™ テクノロジ搭載)※1	モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 1.6GHz (拡張版インテル®SpeedStep™ テクノロジ搭載)※1
内蔵キャッシュメモリ		12Kμ命令実行トレースキャッシュ/8KBデータキャッシュ	
セカンドキャッシュメモリ		512Kバイト(CPU内蔵)	
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準512Mバイト(メモリバス266MHz)	標準256Mバイト(メモリバス266MHz)
	最大	1024Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を2枚取り付けた場合)	
	ビデオRAM	16Mバイト	
表示機能	表示素子※2	15型 高輝度 広視野角 ハイレゾTFTカラー液晶(UXGA)	
	グラフィックアクセラレータ	ATI社製Mobility™ RADEON™標準搭載 (ビデオアクセラレーション機能対応)	
		800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、 1280×1024ドット(65536色／1677万色)、1600×1200ドット(65536色／1677万色)	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、 1280×1024ドット(65536色／1677万色)、1600×1200ドット(65536色／1677万色)	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ	
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド	
	DolbyHeadphone機能	サポート	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)	
	ワイヤレスLAN	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)	

型名		LC950/3E	LC900/3E
型番		PC-LC9503E	PC-LC9003E
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵	
	ハードディスク※3	約60Gバイト	
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※4※5	読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速、書き換え最大10倍速	
インターフェイス		ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1、USB2.0×4、ビデオ出力(S-Video×1)	
	サウンド関連	ヘッドフォン出力／ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、 マイク入力(モノラル、ミニジャック)、 マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、 ライン出力レベル1Vrms	
ヘッドフォンマイク		モノラルヘッドフォンマイク添付	
PCカードスロット		TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
メディア用ポケット		「メモリースティック」用のマジックゲート　メモリースティック　アダプタ添付	
パワーマネージメント		自動または任意設定可能	
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)	
バッテリ駆動時間※6※7		約1.5時間(最大約2.4時間)	
バッテリ充電時間※7(オン／オフ時)		標準約2.5／2.3時間(最大約3.1／2.9時間)	
電源		ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)※8、または AC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由※9)	
消費電力		約23W(内蔵オプション最大接続時　約60W)	
温湿度条件		5～35℃、20～80%※10(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		331(W)×275(D)×43.5(H)mm(突起部含まず)	
質量※7		約3.6kg	

※ 1：設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
※ 2：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※ 3：ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約60Gバイト」の場合は約55.87Gバイトと認識されます。
※ 4：Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※ 5：バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
※ 6：JEITAバッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件については、http://121ware.comをご覧ください。
※ 7：時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※ 8：バッテリパックは消耗品です。
※ 9：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
※10：18～25℃、45～75%での使用を推奨。

LC700／LH700／LC550／LC500

型名		LC700/3D	LH700/3E	LC550/3DW	LC500/3D
型番		PC-LC7003D	PC-LH7003E	PC-LC5503DW	PC-LC5003D
CPU		インテル® Pentium® 4 プロセッサ1.4GHz			
内蔵キャッシュメモリ		12Kバイト			
セカンドキャッシュメモリ		512Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)			
メモリ	メインRAM	標準256Mバイト(メモリバス266MHz)			
メモリ	メインRAM 最大	1024Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を2枚取り付けた場合)			
メモリ	ビデオRAM	16Mバイト	8Mバイト		
表示機能	表示素子※1	15型 高輝度 広視野角 ハイレゾTFTカラー液晶(SXGA+)	15型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)		
表示機能	グラフィックアクセラレータ	ATI社製Mobility™ RADEON™標準搭載 (ビデオアクセラレーション機能対応)			
表示機能	グラフィックアクセラレータ	800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)※2、1400×1050ドット(65536色／1677万色)※3、1600×1200ドット(65536色／1677万色)※4			
表示機能	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)、1600×1200ドット(65536色／1677万色)			
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載			
サウンド機能	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応			
サウンド機能	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])			
サウンド機能	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ			
サウンド機能	サラウンド	3Dポジショナルサウンド			
サウンド機能	DolbyHeadphone機能	サポート			
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)			
通信機能	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)			
通信機能	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)			
通信機能	ワイヤレスLAN	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵	なし	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵 WARPSTAR添付	なし
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付			
入力装置	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)			
入力装置	マウス	光センサーUSBマウス添付(LH700のみ)			

型　名		LC700/3D	LH700/3E	LC550/3DW	LC500/3D
型　番		PC-LC7003D	PC-LH7003E	PC-LC5503DW	PC-LC5003D
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵			
	ハードディスク※5	約40Gバイト	約30Gバイト	約40Gバイト	
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※6※7	読み込み最大24倍速（CD-ROM）/8倍速（DVD-ROM）、書き込み最大16倍速、書き換え最大10倍速			
インターフェイス		ディスプレイ（アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン）、IEEE1394（4ピン）×1、USB2.0×4、ビデオ出力（S-Video×1）			
	サウンド関連	ヘッドフォン出力／ライン出力（ステレオ、ミニジャック）、 マイク入力（モノラル、ミニジャック）、 マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms（バイアス2.5V）、 ライン出力レベル1Vrms			
ヘッドフォンマイク		モノラルヘッドフォンマイク添付（LC700、LC550、LC500のみ）			
PCカードスロット		TYPE Ⅱ×2スロット（TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可） PC Card Standard準拠、CardBus対応			
メディア用ポケット		インナーシートホルダーが取り付けられています。			
パワーマネージメント		自動または任意設定可能			
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック（別売の盗難防止用ケーブルを使用）			
バッテリ駆動時間※8※9		約1.4時間（最大約2.4時間）			
バッテリ充電時間※9（オン／オフ時）		標準約2.5／2.3時間（最大約3.1／2.9時間）			
電源		ニッケル水素バッテリ（DC9.6V、3,800mAh）※10、または AC100V±10%、50/60Hz（ACアダプタ経由※11）			
消費電力		約23W（内蔵オプション最大接続時　約60W）			
温湿度条件		5～35℃、20～80%※12（ただし、結露しないこと）			
外形寸法		331（W）×275（D）×43.5（H）mm（突起部含まず）			
質量※9		約3.6kg			

※ 1：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※ 2：LH700、LC550、LC500の場合、バーチャルスクリーン表示。
※ 3：LC700のみ。
※ 4：バーチャルスクリーン表示。
※ 5：ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
※ 6：Orange Book Part2（CD-R）およびPart3（CD-RW）に準拠。
※ 7：バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
※ 8：JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.1.0）に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件については、http://121ware.comをご覧ください。
※ 9：時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※10：バッテリパックは消耗品です。
※11：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用（日本仕様）です。
※12：18～25℃、45～75%での使用を推奨。

LG18SS、LG16SS、LG14SS

□の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

型名		LG18SS/UB	LG16SS/UB	LG14SS/GB	LG14SS/B
CPU		モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 1.8GHz(拡張版インテル®SpeedStep™テクノロジ搭載)※1	モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 1.6GHz(拡張版インテル®SpeedStep™テクノロジ搭載)※1	インテル® Pentium® 4 プロセッサ1.4GHz	
内蔵キャッシュメモリ		12Kμ命令実行トレースキャッシュ/8KBデータキャッシュ			
セカンドキャッシュメモリ		512Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)			
	メインRAM	256Mバイト/384Mバイト/512Mバイト/1024Mバイト(メモリバス266MHz)			
	最大	1024Mバイト(512Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けた場合)			
	ビデオRAM	16Mバイト			8Mバイト
表示機能	表示素子※2	15型 高輝度 広視野角 ハイレゾTFTカラー液晶(UXGA)		15型 高輝度 広視野角 ハイレゾTFTカラー液晶(SXGA+)	15型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)
	グラフィックアクセラレータ	ATI社製Mobility™ RADEON™標準搭載 (ビデオアクセラレーション機能対応)			
		800×600ドット(65536色/1677万色)、1024×768ドット(65536色/1677万色)、1280×1024ドット(65536色/1677万色)※3、1400×1050ドット(65536色/1677万色)※4、1600×1200ドット(65536色/1677万色)※3※5			
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色/1677万色)、1024×768ドット(65536色/1677万色)、1280×1024ドット(65536色/1677万色)、1600×1200ドット(65536色/1677万色)			
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載			
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応			
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])			
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ			
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド			
	DolbyHeadphone機能	サポート			
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)			
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)			
	携帯電話/PHS接続ケーブル	ケーブル添付/なし 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信/9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信/64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ/アステル):32Kデータ通信/64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信/64Kデータ通信(PIAFS2.1)			
	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)			
	ワイヤレスLAN機能	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵/なし			

型名		LG18SS/UB	LG16SS/UB	LG14SS/GB	LG14SS/B
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付			
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)			
	マウス	光センサーUSBマウス添付/USBマウス添付/なし			
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵			
	ハードディスク※6	約60Gバイト/約40Gバイト/約30Gバイト			
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※7※8	読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速、書き換え最大10倍速			
インターフェイス		ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1、USB2.0×4、ビデオ出力(S-Video×1)			
	サウンド関連	ヘッドフォン出力/ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、 マイク入力(モノラル、ミニジャック)、 マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、 ライン出力レベル1Vrms			
ヘッドフォンマイク/USBカメラ		モノラルヘッドフォンマイク+USBカメラ添付/モノラルヘッドフォンマイク添付/なし			
PCカードスロット		TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応			
メディア用ポケット		「メモリースティック」用のマジックゲート　メモリースティック　アダプタ、「SDメモリーカード」用のSDメモリーカードアダプタ、InfoAudio(8MB SDメモリーカード添付)を選択可能(選択しない場合は「インナーシートホルダー」が取り付けられています)			
パワーマネージメント		自動または任意設定可能			
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)			
バッテリ駆動時間※9※10		ニッケル水素バッテリ(LG18SS、LG16SS)の場合　約1.5時間、ニッケル水素バッテリ(LG14SS)の場合　約1.4時間、リチウムイオンバッテリの場合　約2.4時間(最大約2.4時間)			
バッテリ充電時間※10(オン/オフ時)		ニッケル水素バッテリの場合　標準約2.5/2.3時間、リチウムイオンバッテリの場合標準約3.1/2.9時間(最大約3.1/2.9時間)			
電源		ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)/リチウムイオンバッテリ(DC14.4V、3,800mAh)※11またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由※12)			
消費電力		約23W(内蔵オプション最大接続時　約60W)			
温湿度条件		5～35℃、20～80%※13(ただし、結露しないこと)			
外形寸法		331(W)×275(D)×43.5(H)mm(突起部含まず)			
質量※10		約3.6kg			

※ 1 ：設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
※ 2 ：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※ 3 ：LG14SS/Bの場合、バーチャルスクリーン表示。
※ 4 ：LG14SS/GBのみ。
※ 5 ：LG14SS/GB、LG14SS/Bの場合、バーチャルスクリーン表示。
※ 6 ：ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約60Gバイト」の場合は約55.87Gバイト、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
※ 7 ：Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※ 8 ：バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1〜4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
※ 9 ：JEITAバッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件については、http://121ware.comをご覧ください。
※10：時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※11：バッテリパックは消耗品です。
※12：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
※13：18〜25℃、45〜75％での使用を推奨。

LL750／LL700

機種名		LL750/3D	LL700/3D
型　名		PC-LL7503D	PC-LL7003D
CPU		モバイル インテル® Pentium®III プロセッサ1.0GHz (インテル® SpeedStep™テクノロジ搭載)※1	モバイル インテル® Celeron® プロセッサ900MHz
内蔵キャッシュメモリ		32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ		256Kバイト(CPU内蔵)	128Kバイト(CPU内蔵)
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準256Mバイト(メモリバス100MHz)	
	最大	768Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を1枚取り付けた場合)	
	ビデオRAM	4Mバイト	
表示機能	表示素子※2	15型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)	
	グラフィックアクセラレータ	ATI社製Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	
		800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)※3、1600×1200ドット(65536色)※3	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)、1600×1200ドット(65536色)	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ	
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX／10BASE-T)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)	
	マウス	光センサーUSBマウス添付	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵	
	ハードディスク※4	約40Gバイト	
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※5※6	読み込み最大24倍速(CD-ROM)／8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速、書き換え最大10倍速	

機種名	LL750/3D	LL700/3D
型　名	PC-LL7503D	PC-LL7003D
インターフェイス	マウス／テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×2、USB×2、ビデオ出力(S-Video×1)	
サウンド関連	ヘッドフォン出力／ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
ヘッドフォンマイク	モノラルヘッドフォンマイク添付	
PCカードスロット	TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能	
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売のセキュリティケーブルを使用)	
バッテリ駆動時間※7※8	約2.0時間(最大約3.4時間)	約1.6時間(最大約2.9時間)
バッテリ充電時間※8(オン／オフ時)	約2.5／2.3時間(最大約3.3／3.1時間)	
電源	ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)／リチウムイオンバッテリ(DC14.4V、3,800mAh)※9またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※10	
消費電力	約19W(内蔵オプション最大接続時　約60W)	
温湿度条件	5～35℃、20～80%※11(ただし、結露しないこと)	
外形寸法	327(W)×269.5(D)×40.0～41.5(H)mm	
質量※8	約3.5kg	

※ 1：設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
※ 2：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※ 3：バーチャルスクリーンで表示。
※ 4：ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイトと認識されます。
※ 5：Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※ 6：バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
※ 7：JEITAバッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件については、http://121ware.comをご覧ください。
※ 8：時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※ 9：バッテリパックは消耗品です。
※10：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※11：18～25℃、45～75%での使用を推奨。

LG10JL

（網掛け）の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

機種名		LG10JL/B
CPU		モバイル インテル® Pentium®III プロセッサ1.0GHz （インテル®SpeedStep™ テクノロジ搭載）※1
内蔵キャッシュメモリ		32Kバイト
セカンドキャッシュメモリ		256Kバイト（CPU内蔵）
メモリ	ROM	512Kバイト（BIOSほか）
	メインRAM	256Mバイト／384Mバイト／512Mバイト（メモリバス100MHz）
	メインRAM 最大	768Mバイト（別売の増設RAMボード（512Mバイト）を1枚取り付けた場合）
	ビデオRAM	4Mバイト
表示機能	表示素子※2	15型 高輝度 TFTカラー液晶（XGA）
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製Mobility-M標準搭載（ビデオアクセラレーション機能対応）
		800×600ドット（65536色／1677万色）、1024×768ドット（65536色／1677万色）、1280×1024ドット（65536色／1677万色）※3、1600×1200ドット（65536色）※3
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット（65536色／1677万色）、1024×768ドット（65536色／1677万色）、1280×1024ドット（65536色／1677万色）、1600×1200ドット（65536色）
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載
	PCM録音・再生機能	内蔵（ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz）、全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵（拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音]）
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド
通信機能	モデム	モデム内蔵（データ転送速度 最大56kbps（V.90）エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5）
	FAX	内蔵（データ転送速度 最大14.4Kbps（V.17）FAX制御クラス1）
	携帯電話／PHS接続ケーブル	なし／ケーブル添付 携帯電話：9.6Kbpsデータ通信／9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信（DoPa） cdmaOne：14.4Kbpsデータ通信／64Kbpsパケット通信（PacketOne） PHS（NTTドコモ／アステル）：32Kデータ通信／64Kデータ通信（PIAFS2.0） PHS（DDIポケット）：32Kデータ通信／64Kデータ通信（PIAFS2.1）
	LAN	LAN内蔵（100BASE-TX／10BASE-T）／なし
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列（英数・かな）、Fnキー（ホットキー対応）、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付
	NXパッド	標準装備（スクロールボタン付）
	マウス	光センサーUSBマウス添付／USBマウス添付／なし

機種名		LG10JL/B
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵
	ハードディスク※4	約40Gバイト／約30Gバイト
	CD-R/RWドライブ※5※6・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※5※6	•CD-R/RWドライブの場合： 読み込み最大24倍速(CD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速 •CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合： 読み込み最大24倍速(CD-ROM)／8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速、書き換え最大10倍速
インターフェイス		マウス／テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×2、USB×2、ビデオ出力(S-Video×1)
	サウンド関連	ヘッドフォン出力／ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms
ヘッドフォンマイク		モノラルヘッドフォンマイク添付／なし
PCカードスロット		TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応
パワーマネージメント		自動または任意設定可能
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販のセキュリティケーブルを使用)
バッテリ駆動時間※7※8		約2.0時間(最大約3.4時間)
バッテリ充電時間※8(オン／オフ時)		約2.5／2.3時間(最大約3.3／3.1時間)
電源		ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)／リチウムイオンバッテリ(DC14.4V、3,800mAh)※9またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※10
消費電力		約19W(内蔵オプション最大接続時　約60W)
温湿度条件		5～35℃、20～80%※11(ただし、結露しないこと)
外形寸法		327(W)×269.5(D)×40.0～41.5(H)mm
質量※8		約3.5kg

※１：設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
※２：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※３：バーチャルスクリーンで表示。
※４：ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
※５：Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※６：バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
※７：JEITAバッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件については、http://121ware.comをご覧ください。
※８：時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※９：バッテリパックは消耗品です。
※10：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※11：18～25℃、45～75%での使用を推奨。

LL550／LL500／LH300

分類	項目	LL550/3D	LL500/3D	LH300/3F
機種名		LL550/3D	LL500/3D	LH300/3F
型番		PC-LL5503D	PC-LL5003D	PC-LH3003F
CPU		1.0GHz モバイル AMD Duron™ プロセッサ(AMD PowerNow!™ テクノロジ対応)※1		
内蔵キャッシュメモリ		128Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ		64Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)		
メモリ	メインRAM	標準256Mバイト(メモリバス100MHz)		
メモリ	メインRAM 最大	768Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を1枚取り付けた場合)		
メモリ	ビデオRAM	4Mバイト		
表示機能	表示素子※2	14.1型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)	14.1型TFTカラー液晶(XGA)	14.1型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)
表示機能	グラフィックアクセラレータ	ATI社製Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)		
表示機能	グラフィックアクセラレータ	800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)※3、1600×1200ドット(65536色)※3		
表示機能	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)、1600×1200ドット(65536色)		
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載		
サウンド機能	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応		
サウンド機能	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])		
サウンド機能	スピーカ	ステレオスピーカ		
サウンド機能	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド		
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)		
通信機能	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)		
通信機能	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX／10BASE-T)		
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付		
入力装置	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)		
入力装置	マウス	光センサーUSBマウス添付		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵		
補助記憶装置	ハードディスク※4	約30Gバイト		
補助記憶装置	CD-R/RWドライブ※5※6・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※5※6	・CD-R/RWドライブ(LL500、LH300)の場合：読み込み最大24倍速(CD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(LL550)の場合：読み込み最大24倍速(CD-ROM)／8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速、書き換え最大10倍速		

機種名	LL550/3D	LL500/3D	LH300/3F
型番	PC-LL5503D	PC-LL5003D	PC-LH3003F
インターフェイス	マウス／テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、ビデオ出力(RCA×1)、USB×2、IEEE1394(4ピン)×1		
サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、ヘッドフォン出力／ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10kΩ　入力レベル2Vrms マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms		
ヘッドフォンマイク	モノラルヘッドフォンマイク添付(LL550、LL500のみ)		
PCカードスロット	TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリ駆動時間※7※8	約1.8時間(最大約2.3時間)		
バッテリ充電時間※8(オン／オフ時)	約3.6／2.4時間(最大約3.9／3.2時間)		
電源	ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、4,500mAh)※9またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※10		
消費電力	約19W (内蔵オプション最大接続時　約60W)		
温湿度条件	5～35℃、20～80%※11(ただし、結露しないこと)		
外形寸法	308(W)×262(D)×41～44(H)mm		
質量※8	約3.6kg		

※ 1 ：設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
※ 2 ：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※ 3 ：バーチャルスクリーンで表示。
※ 4 ：ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
※ 5 ：Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※ 6 ：バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
※ 7 ：JEITAバッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件については、http://121ware.comをご覧ください。
※ 8 ：時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※ 9 ：バッテリパックは消耗品です。
※10 ：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードは100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※11 ：18～25℃、45～75%での使用を推奨。

LG11NR／LG10RR

□ の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

機種名		LG11NR/B	LG10RR/B
CPU		1.1GHz モバイル AMD Athlon™ 4 プロセッサ(AMD PowerNow!™テクノロジ対応)※1	1.0GHz モバイル AMD Duron™ プロセッサ(AMD PowerNow!™テクノロジ対応)※1
内蔵キャッシュメモリ		128Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ		256Kバイト(CPU内蔵)	64Kバイト(CPU内蔵)
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	256Mバイト／384Mバイト／512Mバイト(メモリバス100MHz)	
	メインRAM 最大	768Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を1枚取り付けた場合)	
	ビデオRAM	4Mバイト	
表示機能	表示素子※2	14.1型 高輝度TFTカラー液晶(XGA)	
	グラフィックアクセラレータ	ATI社製Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	
		800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)※3、1600×1200ドット(65536色)※3	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色／1677万色)、1024×768ドット(65536色／1677万色)、1280×1024ドット(65536色／1677万色)、1600×1200ドット(65536色)	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ	ステレオスピーカ	
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
	接続電話／PHSケーブル	なし／ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信／9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信／64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ／アステル):32Kデータ通信／64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信／64Kデータ通信(PIAFS2.1)	
	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX／10BASE-T)／なし	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)	
	マウス	光センサーUSBマウス添付／USBマウス添付／なし	

<table>
<tr><th colspan="2">機種名</th><th>LG11NR/B</th><th>LG10RR/B</th></tr>
<tr><td rowspan="3">補助記憶装置</td><td>フロッピーディスクドライブ</td><td colspan="2">3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵</td></tr>
<tr><td>ハードディスク※4</td><td colspan="2">約40Gバイト／約30Gバイト／約20Gバイト</td></tr>
<tr><td>CD-R/RWドライブ※5※6・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※5※6</td><td colspan="2">・CD-R/RWドライブの場合：
読み込み最大24倍速(CD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速
・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合：
読み込み最大24倍速(CD-ROM)／8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速、書き換え最大10倍速</td></tr>
<tr><td colspan="2">インターフェイス</td><td colspan="2">マウス／テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、ビデオ出力(RCA×1)、USB×2、IEEE1394(4ピン)×1</td></tr>
<tr><td></td><td>サウンド関連</td><td colspan="2">ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、ヘッドフォン出力／ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)
ライン入力インピーダンス10kΩ　入力レベル2Vrms
マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)
ライン出力レベル1Vrms</td></tr>
<tr><td colspan="2">ヘッドフォンマイク</td><td colspan="2">モノラルヘッドフォンマイク添付／なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">PCカードスロット</td><td colspan="2">TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可)
PC Card Standard準拠、CardBus対応</td></tr>
<tr><td colspan="2">パワーマネージメント</td><td colspan="2">自動または任意設定可能</td></tr>
<tr><td colspan="2">セキュリティ機能</td><td colspan="2">ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリ駆動時間※7※8</td><td colspan="2">ニッケル水素バッテリの場合 約1.8時間、リチウムイオンバッテリの場合　約2.3時間(最大約2.3時間)</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリ充電時間※8(オン／オフ時)</td><td colspan="2">ニッケル水素バッテリの場合 標準約3.6／2.4時間、リチウムイオンバッテリの場合 標準約3.9／3.2時間(最大約3.9／3.2時間)</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源</td><td colspan="2">ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、4,500mAh)／リチウムイオンバッテリ※9または AC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※10</td></tr>
<tr><td colspan="2">消費電力</td><td colspan="2">約19W(内蔵オプション最大接続時　約60W)</td></tr>
<tr><td colspan="2">温湿度条件</td><td colspan="2">5～35℃、20～80%※11(ただし、結露しないこと)</td></tr>
<tr><td colspan="2">外形寸法</td><td colspan="2">308(W)×262(D)×41～44(H)mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量※8</td><td colspan="2">約3.6kg</td></tr>
</table>

※ 1 ：設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
※ 2 ：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※ 3 ：バーチャルスクリーンで表示。
※ 4 ：ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイト、「約20Gバイト」の場合は約18.57Gバイトと認識されます。
※ 5 ：Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※ 6 ：バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
※ 7 ：JEITAバッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件については、http://121ware.comをご覧ください。
※ 8 ：時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※ 9 ：バッテリパックは消耗品です。
※10 ：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードは100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※11 ：18～25℃、45～75%での使用を推奨。

通信機能一覧

内蔵FAXモデム

●機能概要

項　目	規　格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング （DTMFトーン、ダイヤルパルス制御）

●FAX機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14400/12000
	QAM:9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9～-15dBm／-15dBm
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

※:回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

●データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信　33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps※1
	受信　56000/54666/52000/50666/49333/48000/46666/45333/44000/42666/41333/40000/38666/37333/36000/34666/33333/32000/30667/29333/28000bps※1
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM:56000/54667/52000/50667/49333/46667/45333/42666/41333/40000/38667/37333/36000/34667/33333/32000/30667/29333/28000 TCM:48000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM:9600/4800/2400/1200bps DPSK:1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM)
	MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-9～-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠※2

※1:回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

※2:ATコマンドについては、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ATコマンド」をご覧ください。

●ＮＣＵ機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS)
	トーンダイヤル(ＤＴＭＦ)
ＮＣＵ形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話／ＰＨＳ接続機能

携帯電話／PHS接続機能は、携帯電話／PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話／PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

●個別仕様

種　類	項　目	規　格
ＰＨＳ(ＮＴＴドコモ／アステル)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(ＰＨＳ後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
ＰＨＳ(ＤＤＩポケット)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(ＰＨＳ後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6Kbps(データ通信)9.6Kbps(パケット通信) 28.8Kbps(パケット通信)
cdmaOne接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(ＣＤＭＡ方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4Kbps(データ通信)、64Kbps(パケット通信)

●共通仕様

項　目	規　格
制御コマンド	ATコマンド※
網制御機能	ＡＡ

※：ATコマンドについては、「ぱそガイド」-「パソコンでできること」-「ATコマンド」をご覧ください。

内蔵LAN

● 規格概要

項　目	規　格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps
	10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5
	10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台／ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長※	100BASE-TX：最大約200m／ステーション間 10BASE-T　：最大約500m／ステーション間 最大100m／セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

※：リピータの台数など、条件によって異なります。

2.4GHzワイヤレスLAN

2.4GHzワイヤレスLANは2.4GHzワイヤレスLANモデルのみの機能です。

項　目	規　格
データ転送速度	11M/5.5M/2M/1M(bps)(自動切替)※1
準拠規格	ARIB STD-T66(小電力データ通信システム規格) IEEE802.11b(2.4GHzワイヤレスLAN標準プロトコル)
伝送方式	DS-SS方式
伝送距離	見通し約70m(アクセスポイントとの通信時)※2
使用無線チャンネル	1〜11ch
RF周波数帯域	2.4GHz帯全域(2.4〜2.4835GHz)
温湿度条件	温度：5〜35℃ 湿度：20〜80%(結露無きこと)

※1：IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり、実効速度とは異なります。

※2：通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。
これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。1つのリソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

割り込みレベル(IRQ)は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

■ LaVie Cの場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	6	フロッピーディスクコントローラ
1	キーボード	7	(空き)
2	割り込みコントローラ	8	システムクロック
3	(空き)	9	ACPI用システム制御割り込み
4	(空き)	10	内蔵LANインターフェイス
5	サウンド アクセラレータ USBホストコントローラ CardBusコントローラ 2.4GHzワイヤレスLAN※ IEEE1394 内蔵FAXモデム	11	(空き)
		12	NXパッド
		13	数値データプロセッサ
		14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
		15	IDEコントローラ(内蔵CD/DVDドライブ)

※:2.4GHzワイヤレスLANモデルのみ。

■ LaVie L（15型モデル）の場合

IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	（空き）
4	通信ポート
5	サウンド アクセラレータ 内蔵FAXモデム USBホストコントローラ
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート

IRQ	インターフェイス
8	システムクロック
9	ACPI用システム制御割り込み
10	IEEE1394 内蔵LANインターフェイス CardBusコントローラ
11	（空き）
12	NXパッド
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ（内蔵ハードディスク）
15	IDEコントローラ（内蔵CD/DVDドライブ）

■ LaVie L（14型モデル）の場合

IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	（空き）
4	通信ポート
5	（空き）
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システムクロック
9	内蔵LANインターフェイス カードバス IEEE1394ホストコントローラ

IRQ	インターフェイス
10	ACPI用システム制御割り込み
11	アクセラレータ USBホストコントローラ サウンド 内蔵FAXモデム
12	NXパッド
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ（内蔵ハードディスク）
15	IDEコントローラ（内蔵CD/DVDドライブ）

ＤＭＡチャネル

DMAチャネルは、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

■ LaVie Cの場合

ＤＭＡ	インターフェイス
#0	（空き）
#1	（空き）
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	（空き）
#4	ＤＭＡコントローラ

■LaVie Lの場合

ＤＭＡ	インターフェイス		
	デフォルト	プリンタポートをＥＣＰで使用する場合（#1使用時）	プリンタポートをＥＣＰで使用する場合（#3使用時）
#0	（空き）		
#1	（空き）	ＥＣＰ	（空き）
#2	フロッピーディスクコントローラ		
#3	（空き）		ＥＣＰ
#4	ＤＭＡコントローラ		

索引

英字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

索引

や行

ら行

わ行

電子マニュアル 「ぱそガイド」を活用しよう

「ぱそガイド」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使っていて困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

1 デスクトップの「ぱそガイド」アイコン( )をダブルクリックする

ぱそガイドのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする

ニッケル水素電池、リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

初版　2002年5月
NEC
P
853-810028-372-A

PC98-NX SERIES
LaVie

LC950・LC900・LC700・LC550・LC500
LL750・LL700・LL550・LL500
LH700・LH300